

英吉利治罪法目次

總論

英吉利刑事裁判所

逮捕ノ手續

下調ノ手續

公判ノ場所

公訴ノ手續

公判ノ手續

公判ノ手續

略式裁判ノ手續

一丁

三丁

九丁

一七丁

二六丁

二八丁

三七丁

五〇丁

八九丁

英吉利治罪法目次完

英吉利治罪法

法ばりす士とる 增島六一郎講義

第一回

總論

夜盜アリ拔刀シテ甲ノ家ニ入ラントシ其門ニ入ルヤ否之ヲ防止セントスル門衛ト闘セ其右腕ヲ削ク進ントテ甲ヲ縛シ脅迫以テ遂ニ財若干ヲ得テ其垣ヲ越ヘ逃ントスルニ當リ過テ靴ヲ落シテ去ル甲ハ規則ニ從ヒ警察署ニ盜難ノ届ヲ爲セトモ右ノ外別ニ事實證據ノ詳細ヲ報スル能ハス門衛モ亦盜ノ誰ナルヲ知ラス是盜難ノ一例ニシテ其盜ハ重罪ヲ以テ論スヘキ強盜傷人ノ罪ヲ犯シタルモノニシテ刑法ノ正ニ罰アル處ナリ抑モ一ノ罪ヲ罰スルハ其治安ニ害アリ社會及人民ヲシテ其途ニ安ンスルコトヲ得サラシムルノ患ニ備ヘンカ爲メナリ此盜ヲシテ刑法ノ制裁ヲ受ケシメン爲メ之ニ必要ナルノ手續ヲ尽スノ規程ヲ示スモノハ治罪法ナリ本法ヲ講スルニ當リ我刑法ノ重罪ニ匹敵スル「ふゑるねー」(Felon)審判ノ手續ヲ説明スルニ限ルヘシ「ふゑるねー」ト「みぞでみーのる」(Misdemeanour)ハ英吉利刑法罪

種ノ一大別ニシテ右二種ノ犯罪ヲ審判スル治罪法ノ手續ハ第一者ノ第二者ヨリ多クハ重キ罪ナルヨリ相異ナル所ナキニ非レトモ大體ノ手續精神ニ至テハ同一ナレハ殊ニ異ナル所アリテ之ヲ知ルコト肝要ナルノ場合ニアラスンハ其一ノ説明ハ以テ充分我講義ノ目的ヲ助クルヲ以テナリ又公訴ノ手續モ種々アレトモ先ツ「いんだいとめん」と「Judgment」ノ手續ニ依ルモノトシテ之ヲ講シ特別ノ理由アルニアラサレハ他ノ公訴手續ニ依ラサルモノト假定スヘシ其他之ニ倣ヒ取捨折衷シテ治罪手續ノ始ヨリ終ニ至ル迄順ヲ逐フテ之ヲ講シ常ニ實地ニ強盜傷人ノ被告事件ヲ審判シ居ルモノト假定シ各次起ルヘキ所ノ事項及之ニ關スル規則ヲ説明スヘシ是本法講義順序ノ標準ナリト知ルヘシ大體治罪法ノ編纂方ヨリスルモ通常之ヲ講スルモノモ先ツ求刑ノ手續ヲ盡スニ最大切ナル所ナル裁判所ノ構成ヲ示スコソ順序ナルカ如キモ英吉利治罪法ヲ講スルノ目的ハ其原則精神ノ在ル所ヲ學ヒ得ハ足レルヲ以テ英吉利刑事裁判所構成ノ詳細ヲ舉示スルコトヲ要セス茲ニ万一深ク根源ニ就テ學ハントスル者カ英吉利刑事判決録ヲ繕フコトアルニ當リ茫洋ニ迷フノ患ナカラシメンカ爲メ之ヲ左ニ略示スルニ止ムヘシ

英吉利刑事裁判所

英國刑事裁判所ニ六アリ

第一上下立法議院 (House of Lords and House of commons) ハ非常ノ場合ニ於テ或ハ立法院ノ資格ヲ以テシ或ハ司法院ノ資格ヲ以テシテ刑事ノ裁判ヲ掌ルコトアレトモ之ヲ詳説スルノ必要ナシ

第二高等裁判所「*クィーンズベニ*」刑事局 (The crown side of the Queens Bench of High court of justice) ハ通常裁判所ノ最モ高等ナルモノニシテ罪ノ輕重ヲ問ハス總テ之ヲ管轄ス然レトモ其之ヲ審判スルコト極メテ少ナク下等刑事裁判所ニ於テ公平ノ審判ヲ遂クルコト能ハサルノ事情アルカ判定ヲ要スル法律ノ問題非常ニ面倒且ツ大切ナルモノナルコトアルカ審判ヲ全カラシムル爲メ實地檢査ヲナシ又ハ特選ノ陪審官ヲ用ヒルノ要アルカノ場合ニ於テハ「*クィーンズベニ*」で「*ビビョん*」獨リ其目的ヲ達スルニ權力備ハルモノトシテ茲ニ其事件ヲ移スノ制アリテ必要ノ刑事裁判判決ノ例トナルヘキ事件ハ多クハ茲ニ之ヲ移シテ開廷スルモノナレトモ法律ハ殊ニ其刑事審判ノ規則ヲ濫用セシメサル様之ヲ制限ス

右ハ犯罪ノ場所ヲ論セス廣ク全國中何レノ所ニテモ起ルノ犯罪ヲ掌ル以下論スル裁判所ハ犯罪ノ場所ニ依リ管轄ノ區域ニ制限アリ

第三「あつさす」(Assizes)ト云フ刑事裁判所アリ英吉利全島ヲ分テ八區ト爲シ每區春秋ノ二度高等裁判所ノ判事巡廻シ各區内ノ諸州ニ於テ一年一度ハ是非各州ノ監獄ニ公判ヲ待ツ所ノ犯罪者ヲ沙汰スルモノトス時トシテハ冬期ニモ開廷シ一年三度ノ開廷トナル地方アリ右高等裁判所ノ判事ハ其判事ノ資格ヲ以テセス特命ニ依リ巡廻スルモノニシテ事務ノ都合ニ依リテハ代言人中先進ノ人ヲ以テ之ニ任シ一州一時ニ數名ノ「あつさす」刑事裁判所ヲ開廷スルコトアリ

第四「せんどらる、くりみある、こーじ」(Central Criminal Court)ト云ヘル刑事裁判所ハ千八百三十四年ノ創設ニ係リ「あつさす」ト殆ント管轄權ヲ同フシ倫敦府みつどるさつさび州及其外國ノ地方ニ起ル刑事々件ヲ裁判シ事務ノ繁簡ニ依リ度數ニ多少アレトモ少クトモ毎年十二回開廷スルモノニシテ高等裁判所及其他司法ノ顯職ニ居リタルモノ及倫敦府ノ司法官ヲ以テ之ニ充テ臨時特選就職セシムル者トス該裁判所ハ海上ニ起リタル犯罪「くいんす、べんちでびトよん」ノ命シテ移ス犯罪

事件及同裁判所同様下ニ説明セントスル「せしよんす」刑事裁判所ヨリ移シタル事件ヲ管轄ス

第五「せしよんす」(Sessions)ト總稱スル刑事裁判所ニニアリ各州每年少クモ四回豫定シタル期限ニ開廷スルモノヲ名ケテ「かうんてい、せしよん」(County Sessions)ト云ヒ地方都府ノ内自治ノ特權ヲ有スルモノカ其區内ノ犯罪ヲ審判スル爲メ「かうんてい、せしよん」同様開廷スルモノヲ「ぼろーせしよん」(Borough Sessions)ト云フ右ノ兩裁判所ハ「あつさす」裁判所ノ掌トラサル輕キ犯罪ヲ審判スルモノニシテ「じやすちす、をふ、びーす」(Justice of Peace)即チ我國警察官ニ匹敵スル者二人以上列席ノ上ニテ審理ス又該裁判所ハ一人ノ「じやすちす、をふ、びーす」カ裁判シタル犯罪控訴事件ヲ審理ス而シテ該裁判所判事カ事實法律ノ兩點ヲ併セテ審判シタル場合ニハ其裁判ヲ以テ最終トシ其承諾アルニアラスンハ他ノ裁判所ニ於テ之ヲ覆スコトヲ得サレトモ其大切且ツ六ヶ敷モノト思考スル場合ニハ其取調ヘタル事實一件書類ヲ廻シ「くいんす、べんちでびしよん」ノ説ヲ請フコトアリテ其間ハ或ハ其下シタル裁判ヲ存シ或ハ之ヲ臨時取消スモノトス

第六 みるせへきす州ノ爲メ殊ニ設ケタルせしよん裁判所アリ之ヲ名ケテ「ミ
 どりせつさすせしよん」(Middlesex sessions)ト云ヒ國都倫敦府内外及其位スル全州ノ
 刑事裁判ヲ掌ラシム而シテ常ニ之ヲ開廷シ十年以上代言ニ從事シタル法律家ヲ
 以テ其裁判ノコトヲ掌ラシメ該裁判官ハ事務ノ繁簡ニ依リ自ラ其補助ヲ選任ス
 右ニ説明スル所ヲ以テ刑事裁判所ノ概畧ヲ知り得ヘク之ニテ我講義ヲ助クルコ
 充分ト信ス刑事判決例ノ判決録中ニ見ユルモノハ多クハ下等ノ刑事裁判所ヨリ
 「くいんすべんちでびしよん」へ移シタルカ又ハ其説ヲ請フタル事件ニ關スルモノ
 ナリ英吉利治罪法ハ上訴ヲ許サ、ルノ常則ナレハ之ニ關シ説明スヘキコト少ナ
 シ後日其段落ニ達シタル上多少之ヲ論スルノ時アルヘシ

治罪法講義ノ範圍

是ヨリ進ンテ余カ治罪手續ノ精神ヲ學フニ必要ナリトスルノ事項ヲ英吉利治罪
 法ヨリ採擇シテ講セントスルノ前先ツ第一ニ其區域及ヒ次第ノ概畧ヲ舉クルヲ
 以テ必要トス

夫レ民事刑事二個ノ區別コソアレ裁判第一着手續ノ精神ハ共ニ同一ニシテ被告

人ヲ裁判所ノ管轄内ニ入ラシムルニアレトモ治罪法ノ手續ハ之ヲ前後ノ兩段ニ
 分ツコト現今文明國立法制度ノ精神ニシテ其前段ニ於テ先ツ果シテ公判ニ附ス
 ル爲メ被告人ヲ法廷ノ管轄内ニ入ラシムルニ一應ノ證據アルヤ否ヲ知ランカ爲
 メ豫審ノ手續ヲ經サルヘカラス若シ否ラサルニ於テハ刑事ハ民事ト異ナリ被告
 人ノ自由權利ヲ害スルコト少々ニアラサレハナリ其後段ニ於テ民事ノ審問ニ匹
 敵スル所ナル公判ヲ開キ前段ニ於テ先ツ一應ノ有罪視スヘキ證據アリトシタル
 被告人ヲシテ公然天下ニ對シ自答辨護セシムルノ機會ヲ與フルノ手續ヲ盡スヘ
 キモノナリ

英吉利治罪法ノ手續ハ政府撰任ノ檢察官之ヲ取扱フニアラス皆代言人ニ於テ公
 訴人及被告ノ兩造ヲ代表ス

凡ソ被告人ヲ告訴シ又ハ告發スルニハ先ツ代言人ニ就キ其事件ハ刑法ヲ以テ論
 スヘキモノナルヤ否且之ヲ論スルニ充分ノ證據備ハルヤ否ヲ鑑定セシムルコト
 第一着ニ求刑人カ盡スヘキノ手續ナリ但シ現行犯ノ場合ハ之ト異ナリ後日之ヲ
 説明スルノ機會アルヘシ

右ノ手續ヲ終リタル上ハ豫審ノ調ヲ爲サンカ爲メ多クハ被告人ヲ逮捕スルヲ必要トス其手續ヲ名ツケテ「あれすど」(Arrest)ト云フ若シ豫審判事カ下調ヲ遂ケテ公判ニ附スヘキモノナリト思慮スルトキハ之ヲ公判ニ附ス之ヲ名ケテ「こみちんぐ、ふをる、どらうある」(Committing for Trial)ト云フ而シテ直ニ之ヲ拘留スルカ又ハ犯罪ノ輕重ニ依リ保釋ヲ許ストキハ公判開廷ノ際ニ必ス出廷スヘキ旨ヲ盟ハシメサルヘカラス英語ニ保釋ヲ「ベール」(Bail)ト云フ次ニ要スルモノハ公訴ノ手續ナリ公訴ヲ名ケテ「ぶろせきうしよん」(Prosecution)ト云フ即チ既ニ示シタルカ如ク「いんだいどめんど」ノ手續ニ依リ之ヲ行フモノトス公判ノ時ニ至リ被告人出廷セハ可ナリ否ラサルニ於テハ之ヲ拘留スルモノトス此事ヲ「ぶろせす」(Process)ト云フ公判ノ時其公廷ニ於テ公訴ニ對スル答辨ヲ爲サシム之ヲ名ケテ「あれーんめんど」(Arraignment)ト云フ此場合ニ於テ被告人カ罪狀ヲ自認スルトキハ論ナキモ其罪狀ヲ否認シテ答へサルカ如キアルトキノ外ハ被告人ハ法律上ノ答辨ヲナスカ或ハ故障ヲ申立ルカ「ぶろいでんぐ、さむ、をぶすてーくる」(Pleading Some Obstacle)又「でまふる」(Demurrer)或ハ一般普通ニ爲ス所ノ罪ナシト云フ「ぶろいでんぐ、のつと、さるてー」

(Pleading not Guilty)ノ三者中其一ヲ擇ンテ答へサルヘカラス既ニ答辯シタルトキハ茲ニ始メテ論點ヲ定ムルモノトス而シテ陪審官(Jury)有罪ノ事實アル者ト決スルトキハ之ヲ名ケテ「こんびくしよん」(Conviction)ト云フ判事之ニ基キ裁判「ぢやじめんと」(Judgment)ヲ言渡シ其ヨリ生スル處刑等ノ結果アルヘク又赦免ニ遇ヒ或ハ減刑セラル、コトアルヘシ是治罪法ノ綱目ナリ右ノ外我國治罪法ノ如キ記入ノ事項少カラサレトモ我講義ノ如ク治罪手續ノ一班ヲ理解シ易カラシメンニハ之ヲ要セサルニ付省畧スルコソ正當ノ講法ナリ何トナレハ右ノ諸項ハ多ク手續ニ止リ直接ニ通常治罪ノ手續ニ影響セサルヲ以テナリ其如何ハ後日我治罪法ヲ引用シ若クハ之ヲ講スルノ際詳説スルノ機會アルヘシ

逮捕ノ手續

凡ソ告知アリタルカ若クハ嫌疑ノ存スル犯罪事件ノ取調ニ對シ答辯セムルノ目的ニテ其出廷ヲ保スル爲メ其人ヲ捕ルルヲ名ケテ「あれすど」(Arrest)ト云フ而シテ拘引狀ヲ以テ逮捕スル場合及拘引狀ナクシテ逮捕スル場合ノ二種アリ
第一拘引狀ヲ以テスル場合ヲ論スヘシ

拘引狀トハ法律ノ手續ニ依リ取調ヲ受クヘキ者ヲ逮捕スルカ爲メ或ル官吏カ署名シタル命令書ニシテ英語ニ之ヲ「わらんど」(Warrant)ト云フ此「わらんど」ハ上下議院又ハ諸省ノ長官又ハ「くいんすべんち、でびしよん」其他刑事ヲ管轄スル裁判所ヨリ發スルモノコシテ「くいんすべんち、でびしよん」ノ判事ハ如何ナル犯罪ノ場合ニ於テモ拘引狀ヲ發スルコトヲ得ヘキモノナレトモ之ヲ發スル多クハ非常ノ犯罪アリタルトキニ限ルモノコシテ通常「じやすちす、をふ、びーす」之ヲ發ス如何ナル場合ニ於テ拘引狀ヲ發スルカ是次ニ論スヘキコトナリ

凡或管轄區内ニ於テ現ニ罪ヲ犯シタルカ或ハ之ヲ疑フヘキ者アルコトノ届出アルカ又ハ既ニ他ノ管轄區内ニ於テ之ヲ犯シ逃レテ現管轄區内ニ任居シ居ルコトヲ届出ツルコトアルトキ既ニ被告人ノ監獄中ニアルニアラサレハ直ニ用ユヘキノ手續ニ様アリ其一ハ直チニ其人ヲ引致スヘキコトヲ命シタル拘引狀ヲ發スルカ又ハ先ツ召喚狀ヲ以テ被告人ヲ呼出シ其出頭セサルトキハ之ニ次クニ拘引狀ヲ以テスルカノコト是ナリ

若シ既ニ公判ニ廻サレタル被告人ヲ逮捕スルニハ其裁判所書記ノ證明書アレハ

直ニ拘引狀ヲ發シテ之ヲ捕フルカ又ハ其既ニ他ノ監獄ニ在ル者ナレハ其監獄宛ニ拘引狀ヲ發シテ之ヲ逮捕ス

直ニ拘引狀ヲ發セシムルニハ届出人又ハ其證人ノ誓證ニ基キタル書面ノ届書ヲ差出サ、ルヘカラス唯先ツ召喚狀ヲ發スルニ止マルトキハ口頭ノ届ニテ誓證ヲ要セサルナリ召喚狀ハ被告人宛ニ被告事件ノ要用ヲ舉ケ其示ス所ノ場所及ヒ時限ニ於テ「じやすちす、をふ、びーす」ノ下ヘ出頭スヘキコトヲ命スルモノニシテ巡查チシテ親シク被告人ノ手ニ渡サシムルカ又ハ其平常住居シテ最終ニ居リタルト知ラル、場所ニ送達スルモノトス

「わらんど」ハ特別ニ指名シタル巡查又ハ其執行管轄區内ノ巡查又ハ「じやほち、をふ、びーす」管下一般ノ巡查ニ宛テ之ヲ發シ被告事件ノ要目ヲ舉テ被告人ノ模様ヲ示シ之ヲ發シタルカ又ハ其同管轄内ノ「じやほち、をふ、びーす」ノ下ヘ逮捕シ來ルヘキコトヲ命スルノ令狀ニシテ之ヲ執行スルマテハ其効力存スルモノトス而シテ被告人ヲ逮捕シタルトキハ其執行終リテ告クルモノトス「わらんど」ハ日曜ナルト否トチ問ハス何レノ日ニテモ之ヲ發スルコトヲ得

「わらんと」ノ効力ハ之ヲ發シタル裁判官又ハ裁判所ニ依リ廣狹ニ差異アルモノトス其全國ニ通スルモノアリ一州ニ限ルモノアリ若シ一州又ハ或ル一地方ニ限リタル管轄權ヲ有スル裁判所ヨリ發シタル「わらんと」ヲ他ノ管轄内ニ於テ執行セんとスルトキハ先ツ其管轄ノ裁判所又ハ裁判官ノ裏書證印ヲ要ス而シテ此場合ニハ其裁判所又ハ裁判官ニ於テ其法廷又ハ其管轄内ノ或ル裁判官へ被告人ヲ送達スルコトヲ命スルコトアルヘシ

凡ソ「わらんと」ノ執行ヲ命セラレタル官吏ハ其管轄内ニ在テ其盡セル丈ケハ必ス其執行ヲ盡サ、ルヘカラス而シテ其令狀法式ニ背キタルモノト表面上見ルヲ得ヘキモノニ非ルモノナルトキハ之ヲ發シタル「まぢすどれ」ニ於テ其權限ヲ超ヘ發シタル者ナリトスルモ執行吏ハ爲メニ之ヨリ生スルノ損害ニ關シ一モ責任ヲ有セサルモノニシテ其過失トナラサルナリ

凡ソ令狀ニヨリ逮捕スルニハ其令狀ヲ示スヲ要セス唯其大体ヲ話スノミヲ以テ足レリトス之ヲ捕フルニハ其人ヲ手ツカラ捕フルカ多少其自由ヲ禁縮スルノ所爲ヲ以テスルニ非スハ足レリトセス被告人ノ家ニ就テ逮捕ノ手續ヲ爲スニ當

五〇

リ其戸内ニ入ルコトヲ拒ミタルトキハ闖入スルモ妨ケナシ且如何ナル日ニテモ又夜中コテモ逮捕スルコトヲ得又相當ノ理由アルトキハ幾人ニテモ逮捕スルコトヲ得ルモノニシテ其補助ヲ求メタルノ人ハ必ス逮捕ノコトヲ助ケサルヘカラス若シ之ヲ拒ムトキハ處刑セラレ、コトアルヘシ

凡ソ「わらんと」ハ其事件ノ詳細ナル事項ヲ記載セサルヘカラス即チ其人ノ職業及ヒ年齢等ヲ記入シテ其被告人ヲ認知シ其人ヲ誤ラサルニ足ルノ事項明ナラサルヘカラス之ニ背キテ漠然ナルモノナルトキハ不法ノ令狀ニシテ其効ナキモノトス

本法ヲ論スルニ當リ茲ニ直接ノ關係アラサルモノナレトモ序ナカラ家宅搜索ノコトヲ述ヘ置クヘシ凡ソ告訴人カ相當ノ理由ヲ擧ケ其盜マレタル財産被告人ノ手中ニ在ルコトヲ警證スルトキハ被告人ノ家宅ヲ搜索スルノ令狀ヲ發スルモノトス

以下「わらんと」ヲ須ヒスシテ逮捕スルノ場合ヲ論スヘシ

第一「じやすちすをふびす」ハ口頭ノ命令ノミヲ以テ其目前ノ現行犯被告人ヲ逮

捕スルコトヲ得

第二「しゑりふ」(Sheriff)ハ其管轄内ニ於テ罪ヲ犯シタルカ又ハ社會ノ秩序ヲ紊乱スル者アラハ職權ヲ以テ之ヲ逮捕スルコトヲ得

第三、巡査ハ管轄區域中其目前ニ於テ罪ヲ犯シ又ハ社會ノ秩序ヲ紊乱スル者アルトキハ直ニ之ヲ「まぢととれ」(Magistrate)ノ面前ニ引致スルコトヲ得ル者トス又「ふゑるに」ノ罪ヲ犯シタルカ又ハ生命ヲ毀ヒ或ハ支体ノ用ヲ失ハシムルカ如キ大傷ヲ負ハシメタル者アルトテ相當ノ理由ヲ示シタル告訴アルカ又ハ之ヲ疑フニ相當ノ理由アルトキハ之ヲ捕フルコトヲ得縱令取調ノ後其事アラサリシモ妨ナシトス但「み及びでみ」の「る」ノ如キ重カラサル罪ニ至テハ之ヲ防クノ必要大ナラサルニ依リ先ツ「むらんど」ヲ得テ之ヲ逮捕スルカ又ハ秩序ヲ保ツマテニ暫時之ヲ拘留シテ其害ヲ防クニ止ムヘキモノトス固ヨリ相當ノ場合ニ於テ「むらんど」ヲ須ヒスシテ逮捕スルコトヲ得レトモ時ヲ失ハス可成速ニ取調ヲ受ケシムルノ手續ヲ盡サ、ルヘカラス

凡ソ其管轄内ニ於テ「むらんど」ヲ須ヒスシテ逮捕スルヲ得ヘキ場合ニ於テ逮捕ノ手

續ヲ盡サ、ルノ巡査ハ告訴ニ依リ罰金ヲ科セラル、コトアルヘシ若シ「むらんど」ナクシテ職務上犯人ヲ逮捕セントスルニ當リ被告人ニ於テ逮捕セラル、ノ理由ヲ知ラサルカ若クハ一見以テ巡査ニ逮捕セラレントスルモノナルコトヲ知り得サル場合ナルトキハ巡査ハ必ス先ツ其職務上逮捕スル旨ヲ告知セサルヘカラス「右ニ述ヘタル手續ヲ盡シ巡査カ職務ヲ執行スルニ當リ抵抗スル者アルトキハ之ヲ殺スモ不可ナシ又必要アレハ門戸ヲ破壊スルモ妨ケナシ而シテ斯ク巡査ノ爲メニ殺サル、コトアルトキハ「むらんど」ヲ以テシタルトキト同一ニ之ヲ殺シタルモノヲ論スヘキモノトス

第四、一人ニシテ其目前ニ於テ罪ヲ犯ス者ヲ見ルトキハ「むらんど」ヲ須ヒスシテ逮捕スルヲ得ルハ勿論法律ハ之ヲ逮捕スルノ義務ヲ負ハシムルモノトス適法ノ手續ニ依リ罪人ヲ逮捕セントスル保安ノ職ニ従事スル官吏ノ依頼アルニ當リ其補助ヲ爲スヘキハ一人當然ノ義務ナルヲ以テ若シ相當ノ理由アルニアラスシテ補助ヲ怠リ其爲メニ犯人逃走スルコトアルトキハ罰金又ハ禁獄ノ刑ニ處セラルベシ其他一人カ犯人ヲ逮捕シ得ル犯罪事件ヲ示シタル詳細ノ布告規

定アレトモ茲ニハ之ヲ畧ス
 又誰レニ限ラス一私人ハ犯罪者ナリト疑フコト相當ナリト思考スル場合ニハ「わらんど」ナクシテ之ヲ逮捕スルコトヲ得然レトモ單ニ其嫌疑ノミヲ以テ逮捕スルニ當リ其嫌疑ノ理由ヲ説明スルコト能ハサルトキハ認告罪トナルコトアルベシ尤モ巡查等ハ格別ニシテ管ニ嫌疑ノミヲ以テ足レリトス何トナレバ巡查等ノ如キ保安警察ノ官吏ハ相當ノ嫌疑ヲ以テ人ヲ捕フルハ其職權内ニアルモ一私人ハ他ニ保護ノ道ナキニアラス相當官吏ノ手ヲ經テ捕フルモ遲キニアラズ敢テ自ラ逮捕スルニ及ハサルモノナレハ此區別ヲ生スルナリ茲ニ注意スヘキハ一私人カ逮捕スルニ當リ現行犯ト單ニ嫌疑アル犯人ヲ逮捕スル場合トノ區別是ナリ其現行犯ナルトキハ一私人ニ於テ逮捕セントスルモノナルモ犯人ノ門戸ヲ破リテ闖入シ其目的ヲ達スルヲ得而シテ其犯人ヲ殺スコトアルカ又ハ爲メニ殺サ、ルコトアルトキハ巡查職務上ノ結果同様之ヲ論スルモノトス然レトモ若シ單ニ其嫌疑ニ基クモノナルトキハ門戸ヲ破リテ闖入スルヲ得サルノミナラス若シ依テ犯人ヲ殺シ又ハ爲メニ殺サ、ルコトアルトキハ少クモ故殺ヲ以テ論セラル、コト

五四

アルヘシ
 又一私人ハ其目前ニ於テ治安ヲ妨ケントスルモノアルトキハ何時ニテモ之ヲ捕フルコトヲ得次ニ犯罪者ノ處刑其所ヲ得セシムルカ爲メ犯人ヲ逮捕シタル者ヲ賞與スルノ權力ヲ裁判所ニ附與ス管ニ之ヲ賞與スルノミナラス爲メニ要シタル所ノ入費モ之ヲ辨償スルノ現則アリ但其詳細ハ茲ニ之ヲ略ス

下調手續

是迄テ説キ來リタル手續ニ依テ罪人ヲ捕フルモ唯之ヲ捕ヘタルノミヲ以テ直ニ犯罪者ナリト斷定スルヲ得ス何レノ國ノ法律ニ於ケルモ先ツ其者ハ公判ニ附スヘキ者ナルヤ否ノ下調ヲ爲サ、ヘカラサルハ既ニ述ヘタル所ナリ而シテ之ヲ捕ヘタル上ハ之ヲ不問ニ措カス相當ノ期限内成ルヘク速ニ「まじじどれ」(Magistrate)ノ前ニ連レ來リテ豫審ノ下調ヲ受ケシメサルヘカラス然ルニ單ニ嫌疑ノ筋ヲ以テ捕ヘタル場合ニ於テ先ツ集メサルヘカラサル證據アレハ勉メテ之ヲ集メ其證據ニ依リテ之ヲ捕フヘシ否ヲサレハ「まじすどれ」ノ調ヲ受ケシムル爲メ之ヲ捕フルコトヲ得ス其精神タル妄リニ捕フルコトヲ得サレシムルニアリテ此

職ニ從事スルモノハ之ニ注意シ漫リニ人民ノ自由ヲ侵サ、ル様謹ムヘキナリ然リ而シテ「まじすどれ」とノ前ニ連レ來リタル時ハ「まじすどれ」とハ直ニ之ヲ調ヘサルヘカラス其之ヲ調フルニ當リ若シ證人ヲ要スヘキモノナレハ其證人トナルヘキ者ヲ召喚スヘシ之ヲ召喚スルニハ被告人ヲ捕フルト同一ノ手續ニ依リ之ヲ召喚シ又ハ之ヲ引致セサルヘカラス若シ證人取調ヲ受クルコトヲ拒ムトキハ七日間ノ禁獄ニ處セラル、コトアルヘシ

元來豫審調ナルモノハ公判トハ大ニ其性質ヲ異ニスルモノニシテ公然之ヲ開クヘキモノニアラス故ニ公衆ノ傍聽ヲ許スト否トハ「まじすどれ」と「見込ニ依レトモ特ニ之ヲ禁スルニアラサレハ何人ニテモ自由ニ傍聽スルヲ得而シテ此豫審調ハ總テ「まじすどれ」と「目ヲ書面ニ筆記セサルヘカラス又之ヲ調フルニ當テ證人ノ必要アレハ被告カ法律ヨリ許サレタル權利ニ由リ伴ヒ來リタル代言人ニヨリ又ハ己レ自ラ證人ニ對シテ問ヲ發スルコトヲ得ルノ機會ヲ與ヘテ之ヲ訊問シ其訊問シタル事項ハ悉ク之ヲ筆記シ先ツ之ヲ讀ミ聞カセ其中立ト相違ナキヤチ問フタル上證人ト共ニ自ラ之ニ記名調印スルモノトス次ニ「まじすどれ」と「ハ之

五六

ヲ被告人ニ讀ミ聞カセ其言ント欲スルコトハ之ヲ申立ルコト勝手ナルヘキ旨ヲ告クヘキモノナリト雖モ之ヲナスハ法律ノ特トニ命スル所アリテ「まじすどれ」とハ被告人ニ向ヒ併シ何事モ云フニ及ハス若シ云フヘキコトアラハ其云ヒシコトハ公判ノ時ニ至リ皆ナ探テ證據トナスヘシ「又如何ナル強迫ノ道ヲ以テスルモ又如何ナル説諭ニ逢フモ別ニ答フルニ及ハス又假令之ニ答フルモ罪ノ輕クナルヘキコトナシト斯ク誠メタル上ニテ其調書ニ對シ被告人ノ述ヘント欲スルコトアレハ之ヲ述フヘシト傳ヘ被告若シ述ヘタルコトアレハ之ヲ筆記シ共ニ之ニ記名調印ス

次ニ「證人ヲ呼出サント思考スルヤ否ヤ」ヲ尋ネ若シ證人ノ取調ヲ請フトキハ「まじすどれ」とハ被告ノ前ニテ他ノ證人ヲ取調ヘタルト同様ノ手續ニ依リテ之ヲ調ヘサルヘカラス

右ノ取調ニハ兩造共相互ノ證人ヲ複問シ又ハ再問スルヲ得ルモノニシテ唯本訴ノ場合ノ如ク嚴正ニ證據法ノ規則ヲ實行セサルノ別アルノミ右ノ取調ヲ終リタルトキハ各證人即チ被告方ノ證人并ニ告訴方ノ證人ヲシテ皆ナ何時ニテモ公判

延コ出テ、證言スヘキ旨ノ誓約ヲ爲サシメ若シ之ヲ拒ム時ハ拘留スルモ妨ケナシ而シテ其取調タル調書及誓約出願等一切ハ公判ヲ開クヘキ裁判所ヘ廻送スルモノトス

若シ一回ニシテ其取調ヲ終ヘサルトキハ尙ホ引續キ八日以内ハ被告人ヲ拘留シ置クコトヲ得レトモ被告人ニシテ再調ノ當日ニハ必ス出庭スヘシトノ誓約ヲ爲セハ敢テ拘留スルニ及ハス且其誓約ニ證人ヲ立テシムルト否トハ一ニ「まぢびどれ」トノ意見ニ由ルヘシ

若シ「まぢびどれ」トカ調書ニ據リ公判ヲ求メ得ヘキ事實證據ナキモノト認ムルニ於テハ直ニ之ヲ放免スヘシ若シ其事實理由アリトスルカ又ハ證據ノ顛末タル寧ロ事實理由ノアルモノト認定スルノ情多キモノトスル時ハ直ニ公判ニ廻サ、ルヘカラス公判ニ廻スニ就テハ直ニ之ヲ拘留スルカ又ハ保釋ヲ許スモノトス又或場合ニ於テハ右ノ拘留保釋ニ依ラスシテ「まぢびどれ」トニ於テ直ニ自ラ之ヲ處分シテ刑ニ附スルコトアルヘシ

拘留シテ牢中ニ捕ヘ置クニ二アリ一ハ公判ヲ待クシムル爲メ一ハ裁判執行ノ爲

メナリ其執行トハ拂フヘキ罰金ヲ拂ハサルカ爲メ其之ヲ拂フマテ拘留スルカ又ハ法律ノ命令或ハ言渡ニ服セサルカ爲メ之レニ服スルマテ入牢セシムルモノニシテ之ヲ爲スニハ「まぢびどれ」(Magistrate)ヨリ監獄署ニ宛テ其拘留スルノ理由ヲ短簡ニ認メタル拘留狀即チ拘留ノ命令狀ヲ發ス監獄署ハ被告人又ハ被告人ノ爲メニ要スル者ノ爲メ請求以後六時間内ニ其拘留狀ノ寫ヲ渡サ、ルヘカラス若シ之ヲ渡サ、ルトキハ嚴刑ニ處セラルヘシ公判ヲ俟ツ爲メニ拘留セラル、者ハ裁判執行ノ拘留ヨリ甚タ輕キ取扱ヲ受クルモノニシテ例ヘハ監獄ノ規則ニ基キ食物若クハ衣服ノ差入レヲ許サレ其他種々ノ自由ヲ得ルモノトス即チ入牢中氣鬱チ生スルトキハ身体ノ運動ヲ試ミンカ爲メ其好ム所ノ仕事ヲ爲スコトヲ得セシム固ヨリ必ス爲サ、ルヘカラス且ツ放免トナルトキハ其仕事ヲ爲タル相當ノ報酬ヲ分與セラル、モノトス但一定ノ取締規則ニ從フヘキモノトス

若シ拘引セサルトキハ被告人ヲ保釋スルモノトス保釋(ベイル)トハ裁判所カ相當ト見込タルノ保證人アリテ公判トナルヘキ時日并ニ場所ニ必ス被告人ヲ差出スト云フノ保證ヲ爲スニ於テハ之ヲ其保證人ニ引渡スノ制ヲ云フ而シテ其保

釋中ハ被告ノ身体ヲ自由ニシ只保證人ナル友人ノ保管中ニアルヲ云フノ意ナリ
 此保釋ヲ受クルニモ種々ノ場合アリ又何時ニテモ之ヲ許スト云フニハアラス今
 如何ナル場合ニ於テハ「まぢすどれ」カ保釋ヲ許スコトヲ得サルカト云フニ國
 事犯罪被告事件ノ時ナリ其時ニ當テ保釋ヲ許スハ只或ル省ノ大臣若クハ「くゐん
 すべんちでびしよん」(Queen's Bench division)又ハ其閉庭中ハ其當直判事ノ命令アリ
 タルトキニ限ルモノトス若シ被告カ國事犯以外ノ罪ヲ犯シタル場合ナルトキハ
 「まぢすどれ」ハ其見込ヲ以テ之ヲ許スト否ト決定ムルモノニシテ必スシモ之
 ナ許サ、ルモ可ナリ夫ノ詐偽取財偽證罪墮胎罪等ノ如キ今一ニ之ヲ列擧セサル
 モ或ル犯罪ノ種類ニ依リ之ヲ許否スルコトヲ其見込ニ任スルト法律特ニ之ヲ命
 スルノ場合アリ茲ニ之ヲ畧ス

今之ヲ許スト否ト決定ムルニハ如何ナル標準ニ據ルカト云フニ若シ之ヲ放ダハ公
 判ノ時ニ至リ出庭スヘキヤ否ヤニ就テ之ヲ定メサルヘカラス而シテ被告人ハ必
 ス罪アルヤ否ヤト云フコトヲ考案中ニ入ルヘカラス固ヨリ有罪ト無罪トハ今參
 考ノ一トナルヘキモ是公判ノ上初テ定ルヘキコトナレハ單ニ是ノミヲ以テ許ス

ト否ト決定ムヘキモノニアラサレハナリ

之ヲ判斷スルニハ參考スヘキ項目ヲ區分スレハ罪ノ輕重及ヒ之ヲ定ムルノ證據
 如何又如何ナル刑ヲ言渡スヘキ場合ナルカ等ノコト是ナリ現ニ謀殺罪ノ場合ナ
 ルトキハ決シテ保釋ヲ許スヘカラサルナリ又「ぐらんじゆーり」(Grand jury)カ
 愈公判ニ附スヘキノ報告ヲナシタルノ場合ニハ固ヨリ被告人ニ對シ一層ノ注意
 ナ用ヒサルヘカラサルハ勿論ナリトス

何人カ保證人ト爲リ得ヘキカ「まぢすどれ」トノ見込ニ在リ又其保證人ノ身元ニ
 疑ハシキ所アレハ之ヲ取調フルモ可ナリ然シテ幼者既婚婦入牢者其他信用ヲ害ス
 ル罪ヲ犯シタルモノハ保證人トナルコトヲ得サルナリ其保證人ノ數ヲ大抵二人
 トスレトモ或ル場合ニ於テハ一人ニテ可ナルコトアリ然リ而シテ一旦保証人ト
 ナルトキハ終始其任ニ當ラサルヘカラスト云フニアラス其之ヲ欲セサレハ其任
 ナ解クモ妨ケナキヲ以テ保證人カ被告人ノ引上ケヲ乞フトキハ裁判所ハ被告人
 ナ召喚シテ其保釋ヲ解キテ之ヲ拘留スルカ被告人ノ更ニ證人ヲ立ントスルニ於
 テハ尙ホ保釋ヲ繼續スルコトヲ得ヘシ

古昔ノ法律ニ依レハ保釋ヲ拒ムカ又ハ保釋ヲ怠リタル裁判官ハ刑法ノ問フ所ナリシカ現今ノ法律ニ於テハ此事タル見込次第ニテ其許否ヲ法律ノ放任スル場合ニ於テハ其保釋ノ請求ヲ拒ミ又之ヲ許サ、ルモ罪トハ爲サ、ルナリ加之爲メニ生シタル損害ノ要償ヲ訴フルコトヲ得サルト云フノ點マテ發達シタリ

保釋ヲ許スニ非常ノ保釋金ヲ取ルコトヲ得ス而シテ保釋金ノ過當ナルヤ否ヤハ其事件ノ輕重ニ依リテ定ムルヨリ他ニ標準アラサルヘシ若シ「まぢすどれ」カ保釋ヲ許スヘカラサルトキニ之ヲ許シ又不充分ナル保證ニ依リテ之ヲ許シタルカ爲メ被告人カ公判ニ出廷セサル等ノコトアルトキハ刑法ニ問ハル、所トナルコトアルヘシ

取調ノ如何ナル段落マテ進ミタル時ニ於テ保釋ヲ許スカ通例「まぢすどれ」ノ前ニテ調ヘラル、ノ時ニアリ然レトモ既ニ公判ニ廻ハサレシ被告人ニシテ公判ヲ俟チ居ル間ハ其閉廷期日前ナレハ何時保釋ヲ許サル、モ妨ケナシ

右ノ外ニ「くるんすべんちでびしよん」其他刑事ノ諸裁判所カ保釋ヲ許スト否トノ場合アレトモ茲ニ其詳細ヲ畧ス

凡ソ下調ヲ終リテ公判ニ係ル時ニ於テハ保釋セラレタル者ト拘留セラレタル者トヲ問ハス被告人ハ何時ニテモ法律ノ定メタル相當ノ費用ヲ拂フ時ハ告訴人被告人證人等ノ調書ノ寫ノ下附ヲ受クルコトヲ得ルナリ此ノ如ク下附ヲ願ハサルモ公判ノ時ニ至レハ入費ヲ要セス之ヲ閱讀スルコトヲ得既ニ被告ハ公判ニ附スヘキ理由アリト定リタル上ハ保釋證書出廷誓約書「れこぐよんす」(Recognizance)等ニ至ルマテ一切ノ書類ヲ公判ノ裁判所ニ移スモノトス然リ而シテ英吉利ノ豫審ハ日本ノ制度ノ如ク公廷ト云ハス「まぢすどれ」ノ見込次第ニテ他人ヲ斥クルコトヲ得レトモ對手人代言人ノ出廷ヲ許スハ其異ナル所ナリ日本ト英吉利トハ自カラ其組織ヲ異ニスルコトナルカ豫審ノ調ハ既ニ述ヘタル如ク一應外見ノ事實證據ニ依リ先ツ罪アリト認メタルトキハ公判ニ廻スカ爲メ取調ヲナスノ制ニシテ有罪ノ判決ヲ爲ス所ニアラサルナリ要スルニ何レノ國ヲ問ハス豫審ノ方法ハ公訴ノ求刑ヲナシ得ヘキモノナルヤ否ヤヲ調フル而已此ノ如クニシテ「まぢすどれ」カ被告ハ公判ニ廻スヘキ事實アリト思慮スルトキハ拘留又ハ保釋ヲ爲シ次ニハ如何ニシテ公判ヲ求ムヘキカ治罪手續ノ段落公訴ノ手續ヲ説明スヘ

キノ時ニ至ルナリ

第二回

公判ノ場所

凡ソ何レノ法律制度ナルヲ問ハス刑事ニ關シテハ其公判ノ場合則チ管轄ノコトハ特ニ必要ナル事項トスルヲ以テ公判ノ手續ニ先チ是ヨリ犯罪ノアリタル時ハ何レノ處ヨリ「ぐらんじゆり」ヲ繰出スヘキカ又何レノ處ニ於テ公判ヲ開クヘキカ其公判ノ場所ニ付テ説明スルコト緊要ナリトス是故障ノ一大理由ナルヲ以テナリ

一般ノ規則ニ依レハ裁判ノ管轄チ有スルハ其犯罪ノ場所ノ裁判所ナレトモ或場合ニ於テハ犯罪地ニ拘ハラスシテ左ノ區別ニ依リ其管轄チ定ムルモノトス

第一、税則又ハ軍規ヲ犯シタル罪及其他廣シ國法ヲ犯シタル所爲ニシテ犯罪ノ場所ニ親密ノ關係チ有セサル罪ノ如キハ國內孰レノ所ニ於テ管轄スルモ可ナル場合

第二、犯罪ノ場所又ハ捕縛ノ場所又ハ現ニ捕ヘラレタルカ又ハ拘留セラル、場

所ニ於テ公判ヲ開クコトヲ得ル罪ノ場合

第三、犯罪ノ場所又ハ其近隣ノ管轄ニテ公判ヲ開ク場合

第四、現ニ罪人ノ引致セラレシ場所ニテ公判ヲ開クコトヲ得ル場合

第五、若シ犯罪カ數多ノ管轄ニ涉リタル時ハ何レノ管轄ニテモ公判ヲ開クコトヲ得ル場合

第六、數多ノ管轄チ通過スル馬車船舶内ニ於テ犯シタルノ罪ナルトキハ孰レノ管轄ニ於テスルモ可ナル場合

第七、贓物ヲ受取リタル場合ナレハ其贓物ノ存在シテ受取人ノ所持スル場所又ハ其正犯チ公判スヘキ場所ニ於テスル場合

第八、正從犯ノ別アルトキハ孰レカノ被告人ノ犯罪ノ管轄ニ於テ開廷シ得ル場合

第九、凡ソ海中ニ於テ負傷シタル所ト其レカ爲メニ死シタル所ト同シカラサルトキハ孰レノ管轄ニ於テスルモ可ナル場合

第十、流罪又ハ懲役ニ處セラレタル者其刑期ヲ終ル前ニ逃走シタル者ナルトキ

ハ其捕縛ノ場所又ハ其送致ヲ命セラレタル場所ニ於テ開廷スル場合
 第十一、外國或ハ海上ニ於テ罪ヲ犯シタル場合ニ於テ人ヲ負傷セシメ又ハ毒殺
 シ或ハ狙撃シタルトキハ現ニ撃タレシ人毒殺セラレシ人ノ到着シタル場所又ハ
 其送致セラレテ到着シタル場所渾テ外國ニテ犯シタル罪ノ場合ハ重モニ倫敦ノく
 ゑんすべんちでびしよんニ於テ公判スヘキモノナレトモ要スルニ國內ナレハ何
 レノ地ニモ開クコトヲ得右ニ演ヘタル犯罪ノ外他ノ罪ヲ海上ニテ犯シタル場合
 ナレハ現ニ罪人ノ捕ヘラレ居ル所自ラ又ハ之ヲ捕ヘラレシ地ヲ以テ其管轄トス
 右十一ノ場合ニ匹適スヘキ罪種アレトモ茲ニ其詳載ヲ省ク
 次ニ公訴ノ手續ヲ審究スヘシ

公訴ノ手續

是ヨリ公訴ノ手續ヲ説明スヘシ
 公判第一着ノ手續ハ「ぐらんどじゆーりー」ノ會議ヲ經テ彼等カ法律ノ誓式ヲ履ミ
 評決シタル或ル罪狀ノ申立書ヲ得サルヘカラス是裁判所ノ書記カ自ラスルカ又
 ハ事件ニ依リ相當代言人ト相談シテ起草シ之ヲ「ぐらんどじゆーりー」ノ評決ニ附

スル所ノモノニシテ其評決アルマテハ其書面タル公訴狀ノ草案タルニ過キス依
 テ之ヲ名ケテ公訴狀ノ草案(A Bill of Indictment)ト云ヒ「ぐらんどじゆーりー」カ法律ノ
 正式ヲ履ミテ評決シタル上始メテ公訴狀トナル之ヲ名ケテ(A True Bill)ト云フ是
 則チ公訴狀正本ナリ

「ぐらんどじゆーりー」トハ法律ニ依リ各管轄内ニ於テ毎年製スル所ノ名簿ニ登載セ
 ラレタル資格ヲ有スル者ヨリ二十四人ヲ召集シ皇帝陛下ノ命令ヲ奉シ天ニ誓フ
 テ正實ニ其刑事事件ノ取調ヲ爲サシムル者ニシテ其資格タル刑事裁判所ノ權限ノ
 高下ニ依リ差異アレトモ「あつさいず」裁判所ニテ會議スルノ「ぐらんどじゆーりー」
 ハ多ク其管轄中最上等ノ位地アル紳士ノ位ヲ有スルモノナリ
 刑事開廷期限ニ至リ判事ハ「ぐらんどじゆーりー」ノ會議ヲ開キ其取調フヘキコト
 ナ説明ス之ヲ名ケテ「ちやーぢ」ト云ヒ殊ニ重要ナル點ニ注意ヲ向ケシメ其判決或
 ハ報知ヲシテ正當ノ結果ヲ得セシメンカ爲メニ「ぐらんどじゆーりー」ヲ助クルノ
 目的ヲ以テス例ヘハ其事件ニ關スル法律ニシテ近頃布告ニナリシモノカ若クハ
 稀レニ用ヒラル、法律ナレハ之ヲ説明シ又竊盜ト詐欺取財ノ如キ相類似スル罪

ハ其區別ヲ説明スル等都テ「ぐらんど」ノ取調ヲ誤マラサシメントスルニ在ルナリ此事終リテ「ぐらんど」ハ公訴狀ノ草案ヲ受取リテ溜リ所へ控へ草按ノ裏書ノ證人ヲ取調へ之ヲ筆記ス而シテ其證人ハ公訴方ノミヲ調フルモノトス蓋「ぐらんど」ノ意ハ被告ヲ公判ニ付スルノ理由備ハル否ヤノミヲ調フルナリ若シ「ぐらんど」之ヲ公判ニ付スルニ足ルヘキモノトスレハ公訴狀ノ草案ハ真正ナル相當ノモノト報シ其旨ヲ草按ニ裏書ス若シ十分ノ理由ナシト認ムレハ之ヲ取消シ不問ニ付スル旨ヲ裏書ス又其一項ハ理由アリ他ノ一項ハ之ヲ理由ナシトシ或ハ數人中ノ被告人幾人カチ有罪視シ幾人カチ無罪視スルハ其自由ナルヲ以テ此評決ニ其旨ヲ裏書ス其評決ノ報告ヲ作りタル上ハ之ヲ裁判所ニ呈ス

若シ「ぐらんど」草按ヲ受理セサルトキハ後期ノ開庭ニ再ヒ之ヲ提出スルコトヲ得レトモ若シ再ヒ之ヲ提出スルニ期限定マリタルモノナルトキハ其期限内ニ之ヲ取計ラハサルヘカラス

右「ぐらんど」ノ調ハ唯告訴ノ一方ヲ聞テ評決スルニ止マリ被告人ハ其

辨解ヲ中立ツルノ機ヲ得スシテ自カラ冤罪ヲ受クルノ害ヲ蒙ムルコト常ナルノミナラス「ぐらんど」ヲ務ムル者ハ法律家ニ非ス其調へタル或ハ法律家タリ或ハ其事ニ慣レタル「まぢす」カ原被兩造ノ申立ニ依リ判定スルモノト其結果異ナルコトハ別ニ辨明ヲ要セスシテ明カナルヘシ是ヲ以テ「まぢす」ト「ど」ノ調ナクシテ直ニ被告人ヲ「ぐらんど」ノ評決ニ附スルヲ制限シタリ其之ヲ許スハ告訴人ニ於テ必ス告訴ノ手續ヲ完了シ且ツ相當ノ證據ヲ提出スル旨ヲ契約シテ保證金ヲ差出スカ又ハ被告人既ニ拘留セラレ居ルカ或ハ公訴ヲ受クヘキコトノ保證契約ヲ爲シタルカ又ハ高等裁判所ノ許可或ハ檢事長ノ指圖アリタルコトヲ証スルノ證書アルカ又ハ法律ノ特ニ之ヲ許スノ場合ニ限ルモノトス我講義ノ爲メニハ各件必ス「まぢす」ノ手ヲ經タルモノトシテ之ヲ説明スヘシ

凡ソ公訴ハ皆ナ「ぐらんど」ノ評決ヲ要スルモノニアラス檢事長又ハ「ぐらんど」のんねんちでびしよん書記官長カ殊ニ其職權ヲ以テ直ニ公訴ニ附スルノ場合アリ又檢屍官「ころあー」(Coroner)ノ報告アルトキハ直ニ之ヲ公判ニ附スルモノ

ニシテ「ぐらんど」ヨリ「」ノ取調ヲ要セサルモノナル變例ノ取扱ナキモノトシ各件皆「ぐらんど」ヨリ「」ノ取調ヲ受クルモノトシテ講述スヘシ
 以下公訴狀ノ書式及之ヲ起草スルニ守ルヘキ心得ヲ講述セントス
 公訴狀ヲ名ケテ「いんぐいとめんど」ト云ヒ「ぐらんど」ヨリ「」カ正實ヲ天ニ誓ヒ評決シタル上或ル一人カ罪ヲ犯シタル旨ヲ公訴スル所ノ書面ニシテ其書式雛形ハ左ノ如シ

被告 B 某

さふをく州「ぐらんど」ヨリ「」某等ハ正實ヲ天ニ誓ヒ右B某ハ何年何月何日某ヨリ強迫惡意ヲ以テ其所有動産ナル靴三足肌着二枚ヲ強取シ之ヲ持テ去リタリ且A某ノ門衛ト闘ヒ之ニ負傷セシメタリ

右所爲ハ我女王皇帝陛下ノ安寧ヲ害シ其尊嚴ヲ冒シタルモノナリ此段告訴ス右ノ雛形ニ付テ注意セサルヘカラサルコトハ第一犯罪ノ場所第二犯罪ノ事項是ナリ

第一犯罪ノ場所ハ本件「ぐらんど」ヨリ「」ノ徵集セラレタル所即チ被告人カ公

判ヲ受クヘキ管轄ヲ示シ

第二、犯罪ノ事項ニ付テハ明確ニ其事實及情況ヲ擧ケ被告カ直接ニ之ト關係スル所ヲ示サ、ル可カラス

第三、被告ノ姓及名両ツナカラ之ヲ明示セサルヘカラス又資格ニ依リ區別スヘキ場合ニ於テハ之ヲ示サ、ルヘカラス

第四、被害者ノ姓名及資格ノ記載方亦同シ

第五、財産ノ所有權ヲ有スル者ハ一個人ナルカ若シハ代理ノ資格アル者ナルカ又ハ既婚婦ナルカノ如キ要スルニ其財産ニ對スル權利ノ性質如何ヲ知ルニ足ルヘキ事項ヲ記載シ置カサルヘカラス

第六、要素トナル時間ヲ掲載セサルヘカラス若シ其罪ヲ構造スル爲メ時間ノ必要ナラサル場合ナレハ正シク之ヲ書セサルモ爲メニ公訴狀ノ無効トナルコトナキモ又或ル場合ニハ時間ノ大ニ必要ナルコトアリ其ハ謀殺再婚夜盜等其他時間ノ罪狀元素ヲ成スモノナルトキハ固ヨリ之ヲ明記セサルヘカラス
 第七、犯罪ノ地モ明カニ記セサルヘカラス而シテ其罪ヲ構造スルノ元素ナルトキ

ハ其欠クヘカラサルハ前項ノ如シ

右ハ必定掲ケサルヘカラサル事項ト之ヲ掲クルノ道ヲ示シタル所ナルカ要スルニ凡ソ犯罪ヲ構造スル所ノ事實情況意思ヲ明確ニ示シ被告ヲシテ其答辯スヘキ所ヲ知ラシメ裁判所ヲシテ其審問スヘキ所ヲ知ルニ容易ナラシメ「下ゆり」カ之ヲ犯罪視スルト否ヲ評決スルニ公訴ノ何物タルヲ解スルニ苦シメサル丈ノ必要ナル事項ヲ記載シ置クヘキモノナリトス

罪ノ種類ニ依リテハ特別ナル文言ヲ用ヒ公訴狀ヲ認メサルヘカラサルモノトストノ規則ナキニ非ラサレトモ我講義ノ爲メ必要ナラスト思考スルヲ以テ之ヲ略ス

凡ソ公訴狀ノ右ノ規則ニ背クモノナルトキハ法律ノ公訴ヲ構造スルモノニアラストシテ之ヲ棄却シ公訴狀不充分ナリト云フノ答辯ヲ爲スモ可ナリ然レトモ唯書式上公訴狀ノ不完全ナルカ爲メノ故ヲ以テ其公訴ヲ取消スコトヲ得ス唯之ヲ正誤セシムルニ止ルモノナリ(此事ハ後段更ニ詳説スヘシ)其書式ニ對シテ異議ヲ容ルハ公判ノ前即チ陪審官ヲ定ムルノ前ニ於テスヘシ往昔ハ其式ヲ全フセサ

ルカ爲メ公訴狀ヲ無効ナリト迄極論シ被告ノ無罪ヲ得ントシタリシカ近來ニ至テハ唯被告カ實地害ヲ蒙ルコトアルニ非サレハ裁判所ハ其公訴狀ヲ正誤スルカ又ハ延期スルカニ止メシムルコト、シ單ニ書式ノミノ爭ニテ公訴ヲ廢スト云フカ如キコトハ之アラサルナリ之ヲ定ムルノ布告アレトモ茲ニ畧ス

右ノ規則ヲ設クルノ理由タル既ニ民事訴訟法ノ時ニ講シタル如ク法律家ノ論定シタルニ出テタルモノナリ若シ之ニ背キ其訴狀ニ記載スル所ノ者正確ナラサルカ又ハ少シニテモ曖昧ナルコトアルトキハ爲メニ公訴手續ノ成立ニ影響スルモノトス此事ハ殊ニ本法ニ於テ最モ嚴格ニ之ヲ守ラサルヘカラス若シ其罪狀ト證據ト相符合セサルトキハ其公訴狀ハ無効トナルヘシ斯ク嚴格ニ行フ所以ノモノハ被告人ヲ保護スルト公判スヘキ罪狀及之ヲ證明スヘキ點ヲ明カニスルノ精神ニ外ナラス

再犯ノ被告人ナレハ公訴狀ニ其事ヲ記入スルコトアリ之ニ對シテ被告人ニ向ヒ眞ニ之ヲ犯シタルヤ否ヤニ付キ答辯セシム若シ其答辯ヲ拒ムトキハ之ニ對シテ證明スルコトヲ得其目的タル既ニ裁判コト付シテ重キ刑罰ヲ蒙ラシムル前ニ果シテ

罪ヲ犯シタルノ人ナルヤ否ヤチ明カニセン爲メ設ケタルモノト知ルヘシ
或場合ニハ公訴狀ニ記載ノ罪ヲ犯シタリトスルノ證據ナキモ之ニ記載セサル罪
ヲ犯シタルモノトスヘキトキハ其罪ニ處スルモ可ナリト云フノ規則ヲ設ケアル
場合アリ

又一人以上罪ヲ犯シタル者アル場合ナレハ一ノ公訴狀中ニ幾人ニテモ記載シテ
公訴スルコトヲ得而シテ其内幾人ニテモ之ヲ有罪トシ又ハ之ヲ無罪トスルコト
ヲ得ルナリ

英吉利治罪法ニハ一般ニ公訴期限ヲ定メサルモノト知ルヘシ然レトモ之ヲ特示
シタルモノナキニアラス謀反ヲナスモノ三年兵ヲ起スコトヲ企テタル者六ヶ月
銃獵禁制ヲ犯シタル者十二ヶ月税關ノ規則ヲ犯シタル者三ヶ年議員撰擧ノ時賄
賂ヲ行ヒタル者一年ト云フノ類ナリ今一々茲ニ之ヲ擧ケス

右ハ既ニ述ヘタル本法講義ノ趣意ニ基キ公訴手續中公訴狀ノ起草ヲ終リタルノ
段落ニ達シタルモノナリ

右公訴通常手續ノ外ニ右ノ如ク即チ檢屍吏ノ報告ニ基キ之ヲ「ぐらんどヒュー」

「」ノ報告ニ代用シ直チニ公判ニ附スルノ場合アリ其徵集及取調ノ手續等ハ略ホ
「ぐらんどヒュー」ト同一ノ者ナレハ之ヲ略ス但シ「ころな」カ或人ニ對シ殺人
罪ノ報告ヲ爲シタルトキハ其被告人ニシテ出庭セシム可キ者ハ直チニ公判庭ニ
出庭セシムルカ或ハ通常逮捕ノ手續ニ依リ之ヲ拘留スル者トス
次ニ論スヘキハ愈々正ニ公判ヲ開カントスルニ先ダチ被告人ノ出廷ヲ爲サシム
ルノ手續ナリ

「」ルセす (Process)

若シ被告人既ニ在檻シ容易ニ之ヲ公判庭ニ引致スルコトヲ得レハ別ニ論ナキモ
若シ被告人カ逃亡シタルカ或ハ公判ノ時出庭スヘキノ誓約ヲナシナカラ之ヲ履
行セサル場合ニハ之ヲ召喚スルノ手續ヲ盡サ、ルヘカラス此手續ヲ名ケテ「ルセ
す」(Process)ト云フ其欠席ノ儘公判ヲ開クハ英吉利法律ノ許サ、ル所ナリ
凡ソ事件ノ公訴ニ附セラレタルヤ否ヤ告訴人ハ其裁判所ニ公訴狀ノ送達アリシ
コトノ證明書ノ下附ヲ願フヘシ既ニ下附アレハ之ヲ持參シテ犯罪ノ地カ又ハ被
告人住居ノ地又ハ居ルナラント疑フヘキ管轄ノ「まぢすどれ」ノ所ニ右ノ證明

書ヲ出セハ「まぢすどれ」トハ其手續ヲ盡シテ之ヲ逮捕セシム而シテ斯ク逮捕セラレタルモノハ果シテ眞實ノ被告人ナルコトノ宣誓證明ヲナスモノアラハ別ニ取調ヲナサス直チニ之ヲ公判ニ附シ又ハ保釋ヲ命ス然レトモ其當時被告人ノ管轄内ニ在ラサルトキハ其旨ヲ證明書ニ裏書スルカ若シ又入牢シ居ルトキハ監獄ニ宛テ公判庭ニ連レ行クヘキ旨ヲ命シタル令狀ヲ發スルモノトス

右ノ外公判ヲ開クノ刑事裁判所ヨリ直ニ逮捕狀ヲ發スルコトアリ

法律ノ定メタル手續ニ依テ以テ其罪人ヲ捕ヘントスルコトヲ捕ヘ得サル場合ニハ已ムヲ得ス欠席裁判ト同様ナル手續ヲ盡スコトアリ而シテ其結果タルヤ被告人ハ法律上死シタルト同様ニ動産不動産悉ク之ヲ沒收シ再ヒ財産ヲ讓リ受ケ又財産ヲ所有スルコトヲ許サス且ツ他人ノ約定ニ對シテ訴フルコト及其子ニ對スルノ權利モ悉ク剝奪セラレ唯或ル場合ニ證人トシテ證言ヲ爲スコトヲ得レトモ其一人ノ證言ヲ信セサルハ勿論ナレハ有レトモ無キカ如シ之ヲ「あうどろーれ」(Outlawry)ト云フ即チ法律以外ノ者ト云フノ意ナリ其手續ノ誤リアリテ此處分ヲ受ケタル場合ニ於テハ之ヲ取消スノ手續アレトモ之ヲ零ス

右ノ如ク被告ハ既ニ何時ニテモ之ヲ公判ニ附スル爲メ出庭セシムルノ手續終リタルモノトシ次ニ愈々被告人ハ何時公判ヲ受クヘキヤ否ヲ定ムルコトアリ通常ノ場合ニテハ「ぐらんぞしゆーり」ノ報告ヲ爲シタル刑事公判開庭期限内ニ之ヲ開クヘキモノトスルノ例ナレトモ告訴人又ハ被告人ノ請求ニヨリテ延期スルコトアリ是公判ノ爲メ必要ナル證人ノ不在ナルカ又ハ疾病ナルカノ如キ充分ナル理由ヲ具ヘ宣誓ノ書面ヲ添ヘテ延期ヲ請ハサルヘカラス左スレハ被告人ハ次ノ公判マテ監獄ニ留メ置クカ若クハ保釋ヲ許スモノトス若シ告訴人ノ延期ヲ請ヘルトキナレハ被告人ハ次回ノ開庭ニ必ス出庭スヘシトノ誓約サヘアレハ敢テ被告人ヲ入牢セシメ置クニ及ハサルナリ

開庭ニ至リ數件アル場合ニハ「ぐらんぞしゆーり」報告ノ次第ニ據リ開庭セサルヘカラス然レトモ之ヲ前後スルハ一ニ辯護人ノ都合ト其他ノ便宜トニヨリ一ニ判事ノ見込ニヨリ之ヲ變更スルモノトス

公判ヲ開クニ方リ第一着ノ手續ハ公訴ニ對シ式ヲ履ミタル道ニヨリ其答辯ノ旨ヲ申立テシムルニアリ之ヲ名ケテ「あれゑんめんど」(Arraignment)ト云フ之ヲ分テ三

段トス第一被告ノ姓名ヲ呼フコト是ナリ若シ一人以上ノ被告人ナルトキハ手ヲ
 舉ケシメテ其誰ナルヲ見定ムルナリ又公判廷ニ於テ被告ハ拘鎖セラレテ檢束ヲ
 受クルコトナシ「ふゑろね」ノ場合ニハ被告人ハ必ス公判庭ニ出庭セサルヘカラ
 サルモ「ミすてみのーる」(Misdemeanour)ノ場合ニ於テハ一度出庭セハ足レリ再度マ
 テヲ要セサルモノトス若シ被告一人以上ナルトキハ同時ニ皆ナ之ニ對シテ論告
 スルモ事件ノ都合ニ依リ各人各個ニ論告スルモ妨ケナシ
 次ニ公訴狀ヲ朗讀シタル後被告人カ之ニ對シ答辯トシテ其申立ントスル事柄ヲ
 問フ而シテ被告人ハ之ニ對シテ答辯ヲ爲スニハ三個ノ途アリ第一、黙シテ答ヘサ
 ルカ第二、自首シテ罪ニ服スルカ第三、相當ノ答辯ヲ爲スカ是ナリ
 若シ被告人カ黙シテ答ヘサルトキ其黙スルハ或ハ哑者或ハ狂者或ハ惡意ヲ以テ
 黙スルニアラサルヨリハ裁判所ヨリ其場ニ居合セタル人ヲ指名シ被告人ニ代リ
 テ罪ナキ旨ヲ述ヘシム而シテ其代答ハ被告自ラ申立タルト同一ノ効アルモノト
 ス若シ果シテ哑者狂者タルノ場合ニ於テハ之ヲ記録ニ留メ審問ヲ中止シ天皇陛
 下ノ御意アルマテ之ヲ監禁スヘシ其果シテ狂人ナルヤ否ヲ定ムルニハ鑑定人ヲ

シテ之ヲ鑑査評定セシム而シテ其者ノ精神ニ於テ有罪ト無罪トヲ識別スルノ能
 カアルヤ否ヤノ標準ニヨリ其者ハ果シテ正シキ腦髓ヲ有シ居ラサルモノナルヤ
 否ヲ認定セシムルモノトス又公判ノ如何ナルモノナルカ又答辯ノ如何ナルモノ
 ナルカ及裁判手續ノ如何ナルモノナルカヲ知ラサルモノ亦同シク之ヲ鑑定スル
 ノ標準アリトス若シ罪ヲ犯シタル當時ハ狂人ニアラサルモ公判ノ際ニ狂人タル
 コトヲ認識スレハ其平癒ニ至ル迄審問ヲ俟ツヘシ
 若シ被告人ノ自白スルトキ其自白タル公訴狀ノ記載スル所ノモノト異ナラスト
 云フニ均シク被告人之ヲ執テ動カサルモノナルトキハ裁判所ハ告訴代言人陳述
 アリタル後言渡ヲ爲スヨリ外ナキナリ若シ犯罪事件ノ死罪ナルトキハ自白ヲ以
 テ足レリトナスハ裁判所ノ非常ニ忌ム所ナレハ如何ナル場合ニテモ法廷ハ常ニ
 其自白ヲ取消サシメ更ニ相當ノ答辯ヲ爲スヲ勸ムルコトアリ何トナレハ被告ハ
 未タ問罪ノ主意ヲ解セサルヤモ知ルヘカラス又入牢シテ勞セス口ヲ糊スル爲メ
 罪ヲ犯スコトナキニアラサレハナリ然レトモ被告ハ既ニ有罪ト決シ刑ノ適用ヲ
 爲シタル後ハ最早答辯ヲ變更スルコトヲ許サス只無罪ナリトノ答辯ヲ爲シタル

時ハ辯護人ノ助言ニヨリ之ヲ取消シ服罪スル自白ノ答辯ヲ爲スコトアリ
 若シ被告ノ自信ヲ以テ他ニ檢束セラル、コトナク「まぢすどれ」ト前ニ於テ己
 レ自ラ其其意ヲ以テ恣ニ自白シタルモノナルトキハ他ニ證據物ノアラサルモ有
 罪タルコトヲ定メ得ヘシ然レトモ是認定證據ノ一ニ過キスシテ之ニ據リテ有罪
 ノ判決ヲ下スヘキニアラス只證據ノ一ト爲スノミナルカ故ニ他ニ打消スヘキ證
 據ヲケレハ縱令ヒ其獨リ全キモノトスルモ公判ニ於テノ自由答辯トハ自ラ區別
 セサルヘカラサルモノナルハ勿論ナレハ注意シテ之ヲ採否スヘキモノトス「或場
 合ニ於テ他ニ證據ヲ得ルノ途ナク若シ罪人中ノ一人カ自白セハ告訴ノ證左ヲ全
 フスヘキモノトスルノ場合ニハ「まぢすどれ」トハ屢々一點ノ蔽ナク之ヲ自白ス
 ル者ハ爲メニ刑ヲ免カレシムヘシトテ其自白ヲ勸告スルコトアリ而シテ之ヲ爲
 スニハ必ス裁判所長ノ許可ヲ得テ爲スヘキモノニシテ己ムヲ得サルノ時ニ限ル
 モノナリ其證言タル充分ノ信用ヲ措クコトヲ得サレハ他ノ證據ヲ以テ之ヲ支フ
 ルニ非スンハ有力ノモノトスルヲ得サルトスルノ制ナリ
 若シ被告人黙シテ答ヘサルニアラス又自白スルニモアラスシテ他ニ答辯トナル

ヘキ事柄ヲ申立ルトキハ之ヲ以テ其答辯トス
 其答辯ノ種類ヲ分テ六トナス一管轄違ノ答辯(Plea to the Jurisdiction)「じゅりーしん、
 むべーどゆんぞ」(Plea in abatement)「じふしやるぎりーた」(Special Pleas)「じふりー、S
 んべー」(Plea in Bar)「せねらる」S「しゆらぶふ」のつとせむるべー」(General Issue of not-
 guilty)「た「せむらる」(Demurrer)「た「せむるべー」答辯是ナリ
 右ノ如キ種類アレトモ之ニヨリ第一、申立テ之ニシテ不可ナルトキハ第二、ニ移
 リ第二不可ナレハ第三、ニ移ルカ如ク順次ニ答辯ヲ爲スヲ許サス而シテ如何ナル
 點ニ於テ何レノ答辯ヲ爲スヲ利トスルカハ漸次ニ學知シ得ヘキモノニシテ以下
 之ヲ略示スヘシ
 第一ナル管轄違ノ申立ハ前ニ述ヘタル公判ノ位置ト關係アリテ現ニ公判ヲ開カ
 ノトスル裁判所ニシテ裁判權ヲ施シ得サルコトヲ答辯スルモノナリ是則ニ其犯
 罪場所ノ裁判所ニアラサルカ若クハ其管轄スヘキ罪類ニアラサルコトヲ答辯ス
 ルモノナレトモ此答辯ハ餘リ用ササルコト、ナリ居レリ何トナレハ他ノ「せねら
 るいつしゆー」又ハ「でまらる」ニヨリ之ト趣旨ヲ同フスルノ答辯ヲ爲スノ勝レルニ

若カサルコトアレハナリ且ツ此答辯ニ對シ裁判所ノ書記ハ再ヒ答へ被告ハ茲ニ論點ヲ結ヒ以テ公判ヲ受クルコトアリ

「ぶりー、いん、あべーどめんど」トハ公訴狀其式ヲ全フセスト云フニアリテ往昔ハ之ヲ用ヒテ行フコト非常ニ嚴ナリシモ今多クハ之ヲ正誤セシムルニ止ムルヲ以テ其採用アルモ無益ナルコト多シトス

次ニ論スヘキハ「すべしやるぶりーす、いん、ばー」ニシテ第一第二種ノ答辯ノ如ク公判ノ手續ヲ妨クルニ止ムルモノニアラスシテ公判事件ノ運命ヲ決スル所ノ答辯ナリ元來如何ナル事柄ニテモ「すべしやるぶりー」ノ理由トナルヘキ者ハ「せねらるいしゆう」ノ答辯ヲ支フル爲メ證據トシテ之ヲ提出スルコトヲ得ルモノナルヲ以テ一々各種ニヨリ特ニ之ヲ以テ答辯スルノ用ナシ以下四場合ノ外一々「すべーあるぶりー」ノ各種ヲ説明スルノ必要アラサルナリ

「すべしやるぶりー」ノ採用アラサル時ノ結果ハ更ニ進ンテ公訴ノ事項ニ對スルノ答辯ヲ爲スヘシト云フニ在リ通常「すべしやるぶりー」ト共ニ「せねらるいしゆう」ノ答辯ヲ爲スハ慣例ナルヲ以テ其採用アラサルトキハ通例其申立ナカリシカ如ク

進ンテ公訴ノ事項ヲ審問ス若シ其採用アリタルトキハ被告人ハ當然免訴セラレ、モノトス

右ニ所謂殊ニ説明ヲ要スル「すべしやるぶりー」ノ場合ハ皆ナ其何物タルヲ示スノ名稱ヲ以テ之ヲ區別ス第一「おーどるふをわ、あくいつど」(Autrefois Convict) 第三「ばーどん」(Pardon) 是レナリ

第一「おーどるふをわ、あくいつど」トハ既ニ公訴ノ事項ニ對シ無罪ノ言渡シヲ受ケタリトノコトニテ既ニ正當ナル法律ノ式ヲ踏ミタル公訴狀ニヨリ公判ニ附セラレ無罪ノ言渡シ受ケタルモノニシテ再ヒ同一ノ罪ニ對シ公判ヲ受クヘキコアラスト云フニアリ英吉利法律ハ一人ニシテ兩度同一ノ罪ヲ以テ嫌疑セラルヘキニアラスト云フ法理ヲ嚴守スルヲ以テ此旨ヲ以テ答へ公訴ヲ免ル、ヲ得ルモノトスルニ出ルナリ

此答旨ニ依リ果シテ答辯スルノ理由アルヤ否ヤヲ定メン爲メニハ先回ノ公訴ハ今回ノ公訴ト果シテ相同シキモノトスヘキヤ否ヲ定ムルニアリ之ヲ詳論スルハ困難ノコトナルガ之ヲ定ムルニハ若シ今回ノ公訴ニ記載ノ事實ニシテ真正ナリ

トセハ先回ノ公訴ヲ支フルニ足ルモノナルヤ否ニアリトス例ハ同シ人ヲ殺シ謀殺ノ公訴ヲ受ケ無罪ニナリタルモノナラハ故殺ノ公訴ヲ受クルモ又先キニ故殺ヲ以テ訴ヘラレテ無罪トナリ今マ再ヒ故殺ヲ以テ訴ヘラル、カ如キ「おーどるふおあ、わくいと」ノ答辯ヲ爲スヘキノ場合ナリトス又竊盜ト雇人カ雇主ノ財産ヲ窃取シタルノ場合又強盜セントシテ傷ヲ負ハシメタルトキノ如キ又「ふゑろねーど」ト其未遂ノ如キ其孰レカ相前後スルモノハ皆「おーどるふおあ、わくいと」ノ答辯ヲ爲スコトヲ得ヘシ然レトモ竊盜ノ公訴ニ無罪トナリタルトテ詐僞取財ノ公訴ヲ免ル、ヲ得ス又主犯ト從犯トノ場合ニ於テ最初主犯トシテ無罪ノ言渡ヲ受ケ從犯ノ場合ニ於テ此種ノ答辯ヲ爲スコトヲ得サルモノトス是レ先後公訴ヲ比照スルノ標準ナレトモ要スルニ被告ハ二個ノ證明スヘキコトアリ第一ハ第一ノ公訴狀タル法律上充分ノ効力ヲ有シ相當ノ手續ヲ履ミタルモノニシテ英語ノ所謂「じおばるでー」(Jeopardy)ト名クル場合ナルコト第二ハ第一ノ訴狀タル種々ノ罪ニ該當シ得ルノ事實體裁ヲ具フル者ニシテ第二ノ公訴狀ヲ以テ訴フルノ罪ヲ訴ヘタルニ均シキ者ナリト云フコト是ナリ右無罪ノ言渡ヲ證明スルニハ之ヲ言渡

シタル裁判所ノ書記局ヨリ其證明書ヲ得テ之ヲ呈出スヘシ
 第二「おーどるふをわ、こんびくと」ト云ヘルモ幾ント前ニ似タルコトハ先キニ同一ノ事件ニ付キ公判ヲ受ケ處刑ニ服シタリト云フコアルナリ是亦前ト同シク同様ノ標準ニヨリ同様ノコトヲ證明セサルヘカラス
 第三「ばーぞん」トハ赦罪セラレタリトノ答辯ナリ是ハ後段ニ論スル積リナルヲ以テ茲ニ之ヲ畧スヘシ今此段落記憶スヘキハ此答辯タル被告ニ於テ之ヲ提出スル機會ヲ得ルヤ否直ニ之ヲ提出セサレハ之ヲ拋棄シタルモノト見做サル、コトアルハ之ヲ遺忘スヘカラサルコト是ナリ
 次ニ説明スヘキハ「でまらー」ノ答辯ナリ
 「でまらー」ナルモノハ事件ノ本体ニ關シ又ハ公訴ノ手續ニシテ法律上無効ナリトスル所アルカ爲メニ被告人ハ之ヲ理由トシテナセル答辯ノ謂ナリ既ニ訴訟法中ニ説明セルカ如ク其採用セラル、トキハ其事件ノ本体ニ關シタルモノナレハ被告ハ無罪放免セラルヘシ若シ手續上ニ關シタルモノナレハ唯其公訴狀ヲ取消シ更テニ正誤スヘキニ止ルノミ

此ノ如ク「でまら」ヲ以テ公訴ニ答へ申分其當ヲ得レハ可ナルモ若シ其中分ノ相立タサルトキハ「ふゑるね」ナレハ直チニ有罪ノ判決ヲ受クルノ結果ヲ生スヘシ左スレハ「でまら」ノ答辯タル害アリテ益ナシト云ハンノミ故ニ今日ニ於テハ之ヲ用フルコト甚タ少ナク若シ事件ノ本体ニ關スルモノナレハ「のつとぎるて」ノ答辯ヲ爲シ其上ニテ尙ホ有罪ナリト認メラルトキハ夫ノ「もしよん、いん、おれすど、をふ、ぢやぢめん」と(Motion in arrest of Judgment) 即チ裁判ノ執行ヲ止ムルノ請願ヲナスヲ得ルヲ以テ先ツ此事實ノ點ニテ争ヒ後チ法律ノ點ニテ争フノ道ヲ採ルヲ可トス是レ一事再理ノ如キ機會ヲ得ルヲ以テナリ而シテ手續上ノ瑕瑾ニ對スル「でまら」ナレハ之ヲ補正スルヲ得ルノ制ナレハ是亦事件ヲ遷延スノミシニテ無用ノコトナルノミ

是ヨリ説明スルハ「せねらる、いし、ひ、のつとぎるて」ノ効用ナリ若シ被告ニシテ有罪タルコトヲ自白シ情狀ノ酌量ヲ得テ罪ヲ減スルニアラサルヨリハ此答辯ヲ爲スヲ利ナリトス其答辯ハ被告人カ必シモ公訴狀ノ所爲ヲ犯サスト斷言スル者ニアラス之ヲ支フルニハ如何ナル理由ヲ以テスルモ可ナリ且ツ爲メニ告訴

人ナシテ如何ナル不用ノコトモ公訴狀記載ノコトハ一々之ヲ證明セサルヲ得サル舉證ノ責任一切ヲ負ハシムルノ次第故前文ノ答辯トハ其責任ヲ顛倒スルヲ以テナリ加之被告ハ依テ不論罪又ハ宥恕減輕ノ事柄ヲ申立ルヲ得ヘク而シテ是等ノ事柄ヲ申立ルハ實ニ此答辯ニヨルノ外他ニ道ナキナリ例ヘハ謀殺ノ公訴ニ於テ其殺人ノ所爲ハ夜間ノ強盜カ家宅ニ侵入スルコトヲ防禦スルカ爲メニ出タルモノナリト答辯スルコトヲ得ス必ス本件無罪ノ答辯ヲ爲シ之ヲ支フルノ理由トシテ右防禦ノ事柄ヲ呈出シ前文ノ如ク告訴人ナシテ舉證ノ責任ヲ負ハシメナカラ如何ナル事柄ニテモ答辯ヲ支フヘキコトハ之ヲ呈出證明スルヲ得レハナリ被告人カ右ノ答辯ヲ爲シタルトキハ爰ニ論點定マル者ナルヲ以テ書類ヲ纏メ之ヲ以テ陪審官ノ公判ニ附スヘキモノトス前文ニ説明シタル種類ノ答辯及「でまら」ノ答辯ハ陪審官ノ助ヲ須スシテ判事自ラ審判シ得ル者ナリ而シテ此判事ノ審判法ハ簡略ニシテ歸スル處原被兩造ノ理由ヲ聞キ之ヲ公訴狀ニ比照シ其答辯果シテ採ルヘキモノナルヤ否ヲ定ムルニアルノミ故ニ事實ノ證明ヲ須タスシテ直ニ之ヲ判定シ得ヘキモノナリ英吉利治罪法ノ公判即チ「どらゐゐる」(Trial)ハ陪審

官ノ審判ヲ受クルト云フノ謂ナリトス

第三回

公判(Trial)ノ手續

公判トハ是レ訴訟法ノ對審ニ該當スルモノナリ而テ是レ獨リ「せねらるゐつしゆ」
う、おふ、のつとぎるて」ノ答辯ニ關シ審判スルノ時ニ限ルノミ
英吉利法律ニハ民事刑事共ニ「じゆーりー」(Jury)ノ調ヲ受クルハ一般ノ規則ニシテ
他ノ法律制度ト異ナル所ナルカ近來ニ至リ民事ニ於テハ「ドゥーリー」ヲ用フルコ
ト次第ニ減少スルノ有様ナレトモ刑事ニ在リテハ依然トシテ「ドゥーリー」ノ取調
ヲ受ケシムルコソ規則ナリトス其理由ハ都テ英吉利人民タルモノハ皆同胞兄弟
ノ審判ヲ受クヘキ權利アリト云フノ主義ヨリ出テタルモノナリ
「ドゥーリー」制度ノ詳細ハ本講義ニ於テ必用ナラサレハ恰カモ訴訟法ニ於テ之ヲ
講セサリシト同様之ヲ略ス年々「ドゥーリー」ノ職ヲ勤ムヘキモノ、姓名録ヲ定メ
其權限ノ規定及理由ヲ示シ或ハ示サスシテ被告人カ「じゆーりー」ヲ忌避スル權利
等ノ制アレトモ是亦必要ナキヲ以テ之ヲ講セス

「じゆーりー」カ愈々公判ニ列席シ取調ニ從事セシ爲メ公平取調ヲナスヘキ旨ノ宣
誓ヲ爲シタル上ハ法廷ノ許可ナクシテ退場スルコトヲ得ス若シ退場セントスル
時ハ必ス法廷ノ官吏ニ伴ハレ出場セサルヘカラスシテ直チニ其結果ヲ報告スル
コトヲ得サル場合ニハ多クハ其報告スヘキ所ヲ協議セン爲メ控所ニ退クノ許可
ヲ得官人ニ伴ハレ他人ト語ヲ交ヘシメストノ誓ヲ爲シテ後協議ノ爲メ退クモノ
トス

若シ其一人ニシテ事件ニ利害ヲ共ニスルモノト談スルカ或ハ正當ノ途ニ由ラス
シテ報告セシトノ事實判然スルトキハ其決議ハ爲メニ無効トナリ且ツ罰金ヲ科
セラル、モノトス若シ一日ニシテ結了セサルトキハ判官ノ許可アルニアラサレ
ハ法廷ヨリ退クコトヲ得ス其他「じゆーりー」中ノ一人ニシテ爲スヘカラサルコト
ヲ爲セシ時ハ全体ノ「じゆーりー」ノ爲シタルコトハ凡テ無効トナリ改撰ヲ行ハサ
ルヘカラサルモノトス

凡ソ法律ノ通常定メタル資格ヲ有シ居ルモノヲ名ケテ「こんもんとゆーりー」ト云
フ民事刑事共ニ「すぺしやる、ドゥーりー」ナル者ヲ撰任ス是レ「くいんすべんち」でび

「トよん」ニ於テ公判ヲ開ク場合ニ限ルモノニシテ告訴人又ハ被告ノ請求ニヨリ法廷ノ許可ヲ受ケ特別ノ入費ヲ拂ヒ普通ノ「トゆーり」ニ於テ定メ得サルコトヲ決セシムルカ爲メ特ニ召集スルモノナリ然レトモ裁判所カ之ヲ必要トセサルトキハ其助ケヲ籍ルコトヲ許サ、ルモノトス
十二名ノ「トゆーり」ノ法廷ニ出テ事ヲ執ルノ前ニ公平ノ調チナスヘキ旨ヲ宣誓ス

既ニ開庭アリタル後告訴人又ハ其代言人ヨリ告訴ノ申立ヲ爲シ公判第一着ノ手續ヲ爲スノ順序ヲ説明スルノ大方ヲ掲ケ置クコソ讀者ヲシテ一時ニ其手續全体ノ何モノタルヲ知ラシムルノ便アルヲ以テ茲ニ之ヲ掲クヘシ而シテ此場合四アリテ左ノ如シ

第一辯護人アリテ辯護ノ證據ヲ呈出スル場合

- 一、告訴代言人其事實ノ申立ヲ爲ス
- 二、告訴代言人其證人ヲ訊問ス但シ是ニ於テ辯護人告訴代言人ノ間ニ此證人ニ對シ復問再問ノ手續ヲ盡スヲ得ヘシ

三、辯護人其事實ノ申立ヲ爲ス

四、辯護人其證人ヲ訊問ス但是ニ於テ告訴代言人辯護人ノ間ニ此證人ニ對シ復問再問ノ手續ヲ盡スヲ得ヘシ

五、辯護人其辯護ノ趣旨ヲ辯論ス

六、告訴代言人之ニ答論ス

第二辯護人アリテ辯護ノ證據ヲ呈出セサル場合

- 一、告訴代言人其事實ノ申立ヲ爲ス
- 二、告訴代言人其證人ヲ訊問ス但是ニ於テ辯護人告訴代言人ノ間ニ此證人ニ對シ復問再問ノ手續ヲ盡スヲ得ヘシ
- 三、告訴代言人告訴ノ趣旨ヲ辯論ス
- 四、辯護人陪審官ニ對シ之ニ答論ス

第三辯護人ナクシテ被告人證據ヲ呈出スル場合

- 一、告訴代言人其事實ノ申立ヲ爲ス
- 二、告訴代言人其證人ヲ訊問ス但此ニ於テ辯護人告訴代言人ノ間ニ此證人ニ對

- シ復問再問ノ手續ヲ盡スヲ得ヘシ
- 三、被告人自ラ其證人ヲ訊問ス但是ニ於テ告訴代官人被告人ノ間ニ此證人ニ對シ復問再問ノ手續ヲ盡スヲ得ヘシ
- 四、被告人陪審官ニ答辯ノ趣旨ヲ辯論ス
- 五、告訴代官人之ニ答論ス

第四辯護人ナク辯護ノ證據ヲ呈出セサル場合

- 一、告訴代官人其事實ノ申立ヲ爲ス
 - 二、告訴代官人其證人ヲ訊問ス但是ニ於テ被告人告訴代官人ノ間ニ此證人ニ對シ復問再問ノ手續ヲ盡スヲ得ヘシ
 - 三、被告人陪審官ニ對シ辯護ノ趣旨ヲ辯論ス
- 告訴代官人ハ其事實ノ申立ヲ爲スニハ事件必要ノ事實ヲ申立テ之ニ關シテ如何ナル證明ヲ爲スカチ申立ツルニ在リトス次ニ前文ノ順序ニ依リ辯護人又ハ被告人カ辯護ノ事實ヲ申立ツルモ同様ニ之ヲ爲スヘキ者ナルカ原被兩造之ヲ爲シタル後各其證人ヲ訊問シ之ニ次キ復問再問ヲ爲スヘキ順序ナレトモ證人ヲ訊問セ

英

- ント欲セハ之ヲ召喚シ出庭セシムルノ手續ヲ盡シ其證人ノ資格其申立ヲ助クヘキ證言證據物件ノ提出其證明方法一般ノ證明方法等ハ原被兩造ノ盡スヘキ忘ルヘカラサル事項ニシテ之等ノ證明方ヲ用フルノ段落ハ右ノ申立ヲ爲シタルノ次ニアレハ是ヨリ右ニ關スル事項規則ノ概畧ヲ論セントス而シテ第一民事刑事ノ別ニ依リ證據法ノ異ナル主點ヲ掲クヘシ
- 一、民事ニハ證人ノ數ヲ定メ一人ニテ足レルモ刑事ニハ一人以上ヲ必要トスル場合アリ
 - 二、自白ノ口供ヲ許容スルニ制限アリ又之ヲ抗撃シテ動スヲ得サルモノトスル場合アリ
 - 三、民事ニハ原被告トモ證人トスルヲ得レトモ刑事ニハ多クハ之ヲ許サス
 - 四、民事ニハ夫婦間相對シテ證人トナラシムルヲ得ルモ刑事ニハ多クハ之ヲ許サス
 - 五、刑事ニハ出庭スルコト能ハサル者ノ誓答書ヲ用セ且之ヲ以テ他ノ證人ヲ反駁スルノ用ニ供スル場合アリ
 - 六、殺人罪事件ニハ死亡ノ原因ヲ證スル爲メ證據トシテ其末期ノ談話ヲ採ルコト

七、刑事ニハ被告人平生ノ行狀性質ヲ証スルノ證人ヲ用フルコトヲ得
 公判ノ證人ハ豫審ノ證人ト同シテ豫審ノ際誓約シタル者ハ別ニ召喚ヲ須ヒ
 ス公判ノ日又ハ其通知ヲ受ケタル日限ニ出庭スヘキモノトス公判ノ爲召喚セラ
 レタル者亦同シ若シ出廷セサル者アルトキハ法律ノ手續ヨリ其出庭ヲ命令シ
 之ヲ強行セシムルモノトス

豫審中ニ調ヘサリシ證人ヲ召喚スル場合ニハ裁判所ノ書記ヨリ「さつびーちー」(Subpoena)ト云ヘル召喚狀ヲ發シ其寫ヲ渡シ本書ハ唯之ヲ示スニ止ム若シ其證據ト
 シテ證人カ書面ヲ提出スルヲ要スルトキハ其旨ヲ召喚狀ニ認ムヘシ證人ハ必ラ
 ス其命ヲ奉セサルヘカラス但其者自ラ罪ヲ蒙ルカ又ハ其人ノ不動産ノ權利ヲ證
 明スル所ノ書面ナルトキハ此限ニアラス

此ノ如クシテ只出庭スルニ止ルカ又ハ書類ヲ捧呈スヘキノ召喚ニ應セサルトキ
 ハ罰金ヲ科シ又ハ裁判所ニ對シタル不敬ノ罪トシテ之ヲ論シ又ハ公訴シテ罰ス
 ルコトアリ之ヲ罰センニハ其證人ニ召喚狀ヲ送達シ其送達タル公判前相當ノ猶

豫時間ヲ與ヘタルモノナラサルヘカラス若シ證人貧窮ニシテ出庭ノ餘力ナシ且
 ツ其入費ヲ前以テ渡サ、リシ時ナレハ裁判所ハ之カ爲メニ其罪ヲ恕スルノ場合
 アリ

然レトモ若シ其證人ニシテ他ノ監獄ニ在ル者ナルトキハ裁判所ヨリ其監獄署ニ
 照會スルノ手續ヲ盡スヘシ若シ又裁判傍聽ニ來リ在廷スルモノヲ尋問スヘキ場
 合ナレハ召喚狀ヲ俟タスシテ直チニ證言セサルヘカラス此ノ如ク證言ヲナスカ
 爲メ召喚セラレタルノ人又ハ證言スルコトヲ誓約シタルモノハ其事件ノ終ル迄
 ハ他ノ事件ノ爲メニ妄リニ拘引セラル、コトナシ其特權ハ出庭ヨリ結局ニ至ル
 迄繼續スルモノトス

凡ソ證人ノ出廷又ハ證言ヲ妨ケ若クハ妨ケント爲シタルモノハ裁判所ニ對スル
 不敬罪ヲ以テ論スヘシ若シ之ヲ嚇シテ證言ヲナサ、ラシメントシタルモノハ其
 罪更ニ重ク刑法ヲ以テ論スヘシ

證人及告訴人共其出費面倒及時間ニ報コル爲メ裁判ノ結果ニ關セス又公訴アリ
 タルト否ヲ問ハス裁判所ハ之ヲ召喚シタル者ヘ其支辨ヲ命スルコトアルヘシ但

公訴アラサルトキトテモ善意ニ出廷シタル證人ハ其相當ノ入費ヲ給與ス又被告
 人ノ證人ニモ其入費ヲ給與スルコトアルヘシ
 公訴入費ハ被告人ナシテ自ラ其全額又ハ幾分ヲ負担セシメ若シ其事件ニシテ告
 訴人ニ傷ヲ負ハシメ或ハ毆打シタル場合ナルトキハ其療養ノ爲メ費シタルノ費
 用并ニ爲メニ時日ヲ費シタルカ爲メ得ヘキ利益ヲモ辨償セシムルコトアルヘシ
 然レトモ濫訴ノ弊ヲ防カシメ爲メ無罪ノ申渡ヲ受ケタルトキハ告訴人ナシテ被告
 人ノ入費ヲ拂ハシムルノ制アリ又誹毀罪ノ告訴ニ被告人無罪トナレハ告訴人ヨ
 リ其入費ヲ申受クルコトヲ得ルモノトス
 凡ソ證人ヲ用フルニハ其證人トセントスル者ハ證人タルノ資格ヲ有スルヤ否其
 證言採ルヘキヤ否其證人ニ法律ノ要スル定數アルヤ否ハ公判ヲ待タス告訴ノ際
 ヲリ思慮スヘキノ事項タルハ贅言ヲ要セサレトモ公判コソ充分右諸項ヲ實施ス
 ルノ本場ナルニヨリ此講義ニ於テモ次ニ之ヲ講スヘシ
 如何ナル證人ナレハ之ヲ許シテ可ナルヤ否ノ事タル古昔ニ溯ル程其取除ケ多カ
 リシカ近年次第ニ減少シ今日ハ僅カニ左ノ場合存スルノミ

第一、被告人ノ夫若クハ婦ハ相對シテ證人トセラル、コトナシ是夫婦一体ナレハ何
 人ヲ問ハス自ラ己ヲ罪スヘキノ理ナシト云ヘル英吉利法律ノ精神ニ基クモノナ
 リ但相闘争シ負傷セシメタル場合ニハ固ヨリ相對シテ證言セシムルハ當然ナ
 リトス又再婚罪ノ場合ニハ第二婦及他人ノ婦女ヲ誘姦シタルノ場合ニハ法律ノ
 認ル夫婦ノ關係アラサルモノナルヲ以テ相對シテ證言セシメラル、モノトス
 第二、被告人ハ證人トシテ訊問セラル、コトナシ是前項同一ノ理ニ基クモノニシ
 テ若シ訊問ヲ受クレハ「くろす、ゑさぎみねーしよん」(Cross-Examination)ヲ受ケサ
 ルヘカラス己ノ罪ヲ答フルヲ辭シ得サルニ至ルト云フニ出ルモノナリ
 第三、共犯者ハ相對シテ證人トセラル、コトナシ但告訴ノ目的ヲ達セン爲メ法廷
 ノ特トニ之ヲ許スノ場合ハ此限ニアラス
 第四、瘋癲白痴者ノ證言資格ハ犯罪不能者ノ場合ト同ク證言セシムルヲ得ス果テ
 其不能力者ナルヤ否ハ裁判所ノ判定スル所ナリトス瘡啞者ハ通辭ヲ用ヒ譯言
 セシムルモノトス
 第五、小兒ノ場合ハ前項ト異ナリ七歳以下ノ者ハ罪ヲ論セサレトモ其天帝ノ何者

ナルト虚言ヲ吐クノ利害如何ヲ知覺スル者ナレハ證人トシテ之ヲ訊問ス
 第六、代言人并辯護人トナリタルモノハ其擔當ノ事件ニ付證言セサル可ラサルノ
 義務アルコトナシ又依頼人ノ承諾アルニ非スハ決テ證言スルコトヲ得ス其
 職業上往復シタル書面及談話ノ事柄ニ關シ其現ニ公判ノ事件ニ關スルモノナ
 ルト又其依頼人ハ現ニ被告人トナリ居ルトヲ問ハサルナリ然レトモ或書面ハ
 依頼人ノ手跡ナルヤ否ノ如キ職業上ニ關係ナキ事ニ付テハ證言ヲ辭スルコト
 ヲ得ス但右ハ獨リ代言辯護ノ事ヲ擔當シタルノ法律家ニ限ルモノトス
 第七、政府ノ機密ヲ洩シ或ハ如何ナル道ニ依リ政府ハ密事ヲ知リタルカト云フ如
 キ公務ヲ害スル恐れアル事柄ニシテ直接ノ關係アラサルモノハ裁判所ヨリ其
 取調ヲ強ヒス又之ヲ許サ、ルコトアリ
 右ノ諸項ハ訊問ヲ拒ムノ理由ナルカ其訊問上發見シタル場合ノ外ハ「えきざみぬ
 ーしよん、いん、ちーふ」(Examination in chief)前ニ之ヲ申立故障セサルヘカラス英語ニ
 之ヲ名ケテ「いんこんべてんせー、どふ、ういとねす」(Incompetency of witness)ト云フ
 右ノ如ク證人不合格ノコトタル益々其區域ヲ狭メタルヨリ今日ハ之ニ換ユルニ

其人ノ證言ハ信スルニ足ル可キヤ否ノコトヲ以テス而シテ其信スヘキヤ否ト其
 度トハ事實審判官ナル「じゆりー」ノ評スヘキ所ナリ而シテ之ヲ決スルハ其人ハ如
 何程證言ノ事柄ヲ知り居ルカ其事柄ニ利害ヲ有シ居ルカ其人ノ行狀性質正シキ
 者カ虚言ヲ吐カサルノ人ナルカ其人ハ神誓ノ制裁ヲ信シ眞實ノコトヲ云フヤ否
 ヲ考ヘ事件ノ大小輕重等ヲ參照シ熟察スルニアルモノトス英語ニ之ヲ名ケテ「
 れぢびりてー、どふ、ういとねす」(Credibility of witness)ト云フ假令ハ
 其間ハレシコトハ如何程知り居ルカ如何ニシテ證人ハ其申立ノ事實ヲ判斷スル
 モノカ如何ニシテ之ヲ知りシカ如何ナル證據ニ據リテ之ヲ知りシカ其學ケタル
 證據ヨリ其他ヲ觀察スレハ其陳フル所正シキモノナルヤ否例ヘハ物ヲ見タリ人
 ヲ見タリト云フニ就テ果シテ白晝カ暗夜カト云フカ如キ又其證人ハ訊問事件ト
 利害ヲ有シ居ルヤ否被告人ニ對シ親族若クハ其他ノ關係アラサリシヤ否被告人
 若シ處刑セラル、アラハ其人ニハ如何ナル利害ヲ及スヘキカ其人ハ被告ニ怨恨
 アルモノニハアラサルカ被告ト爭論シタルコトナキヤ否ノ如キ又其人ハ虚言ヲ
 吐カサルモノトセハ其以前ニ陳述シタルコト今ノ證言ト反スルコトナキヤ或ハ

之ニ符合セサルコトヲ云ヒシカ又ハ符合セサルコトヲ書セシカト詰ルカ如キ又
 證人ノ性質品行如何ト云フ等ノ如キ是ナリ既ニ處刑セラレタル人トテモ尙ホ證
 人トナルコトヲ得レトモ其證言ハ固ヨリ薄弱ナルモノトス之ヲ詰ルニ二途アリ
 テ一ハ其犯罪ヲ擧ケテ「くろす、ゑきざみねーしよん」ヲ爲スカ又ハ證人ヲ擧ケテ其
 行狀ヲ反證スルカ如キ皆ナ證人ノ信否ヲトスルノ道ナリトス其證人ハ犯罪事件
 ニ付又普通ノ事件ニ付テ訊問セラルヘキ者ナレトモ若シ其答タル罪若クハ罰金
 ナ科セラレ、ノコトヲ發示スヘキモノナルトキハ之ニ答フルニ及ハサル規則ナ
 ルヲ以テ其理由ハ相當ナルモノナカヤ否ハ判事之ヲ決ス其唯證人ノ品行上ノ惡
 事ニ止ルモノナルトキハ如何程害アルモノナルモ證人ハ之ヲ拒マヌシテ答ヘサ
 ルヘカラス若シ其事實ヲ拒ムトキハ反證ヲ擧ケ之ヲ覆スコトヲ得ス且其犯罪ノ
 事實ニ關スルモノナレハ他ノ道ニヨリ之ヲ證明スルヲ得又證人ノ不行狀ナルコ
 トヲ證明スル爲メニハ其過去ノ行跡ニ付キ如何ナルコトヲ問フモ可ナリ然レト
 モ事ノ太甚シキコトヲ問ヒ公廷ニ於テ其人ヲ傷クル如キコトヲ爲サ、ルハ各代
 言人ノ見込又ハ其感情ヨリテ之ヲ制限スルヨリ他ニ途ナキニヨリ法律ハ別ニ

四〇

之ヲ制限セサルナリ

證人ノ行狀惡シキコトヲ證明スル爲メニ証人ヲ召喚スルノ目的タル其訴訟人ハ
 兼テ知り居ル通り信スヘカラサルモノナルニヨリ信ヲ置キ難シト云フヲ示スニ
 アレハ其特別ノ罪科ニ對シ問フコトヲ得ス又證人ノ行狀ハ正シキ者トノ疑ヲ起
 スモノアルニ於テハ之ヲ證明スルノ證人ヲ提出シテ可ナリ
 證人ノ證言其以前ニ云ヘル所ト齟齬スルコトヲ反證セシニハ先ツ之ヲ訊問スル
 ニ其曾テナシタリトスル場合ノ情況ヲ擧ケ能ク問答ノコトヲ知ラシメテ訊問シ
 タル上尙ホ之ヲ拒ミタルノ時ニ限ルモノトス又其人ノ書キタル書面ヲ以テセン
 トスルモノナルトキハ其書面ノ齟齬スル點ヲ指シテ之ヲ訊問セサルヘカラス但
 判事ハ其見込次第該書面ヲ用フルノ權アルモノトス書面ヲ以テ認言ヲ反證スル
 ニハ「まぢすどれーど」ノ調書ヲ以テスルコト最屢ナリトス

第四回

前文ノ如ク證人ノ信否ハ其人數ニアラス其人ニアリトハ現今ノ原則ナレトモ二
 三ノ變例アリ第一國事犯ノ證人ハ二人ヲ要ス僞證罪ニモ亦二人ヲ要ス但直接ニ

被告人ノ證言ヲ反證スルニ及ハス其一人ハ被告カ曾テ證言シタルモノヲ反證シ又一人ハ此證言ヲ支ユルニ足ル丈緊要ノ點ニ付證明シ相符合スルコトアラハ可ナリ是レ漫リニ人ニ偽證罪ヲ誣ヒサルノ趣意ニ出タル規則ナリ

共犯被告中ノ一人ノ證言ヲ採ルニハ他ニ此證言ト符合スルノ證據ナカルヘカラス共犯者ヲ庇陰スルカ或ハ己レ一人免罪ヲ望ムカ將タ罪ヲ輕減セラレシムコトヲ期スルカ如トキ恐レアルヲ以テナリ此ノ如ク共犯人ノ申立ヲ支ユル證人ハ曾ニ其犯罪ヲ爲シタルトノ證據ノミナラス其犯罪事件ヲ行ヒシモノハ果シテ被告ナル旨ヲ證言セサルヘカラス

次ニ思慮スヘキハ舉證ノ責任ニシテ告訴人常ニ之ヲ負フモノトス凡ソ被告人ヲシテ答辯ノ事實理由ヲ提出セシムルノ前告訴人ハ其依テ以テ告訴スル所ノ事實理由ヲ證明セサル可カラス而シテ被告事件タル元來被告カナスヘキコトヲナサハルヨリ之ヲ告訴スルニアルモ尙ホ之ヲ證明スルノ責任アルモノトス法律ハ被告ノ有罪ト決セラル、マテハ罪ヲキモノト見做スヲ以テナリ或ル場合ニ於テハ此例外アリ夫ノ爆烈藥所持罪ノ如キ被告人ヲシテ自ラ正當ノ理由用方アリテ之

四三

ヲ所持スル旨ヲ證明スルノ責任ヲ負ハシムルカ如キ又一ノ定リタル證據ニヨルニアラスシテ幾個ノモノ相寄テ成レル幾多ノ證據ニヨツテ證明ヲ爲カカキ甲ハ乙ヲ殺シタル確證ナキモ其血刀ヲ有シ或ハ毒藥ヲ藏シタルコトアルトセシカ之ヲ有シ又ハ之ヲ藏スル相當ノ理由ヲ證明セサルヘカラス然レトモ前例ノ如ク最初ニ證據ノ端緒ヲ舉ケテ其責任ヲ負シムルニ足ル丈ノ舉證ハ必ス告訴人ノ負擔セサルヘカラサルモノトス即チ前例ニ於テ第一着ニ被告ハ右ノ禁制物若シハ不法物ヲ握持シ居ルコトヲ舉ケ證明ノ端緒ヲ開カサルヘカス

次ニ如何ナル事柄ノ證明ヲ要スルカハ是必要ノ問題ナリトス凡ソ公訴狀ニ記載シタル事柄ニシテ不用トスヘキモノニアラサル事實及情況等犯罪構成ノ要素トスヘキモノハ一切之ヲ證明セサル可カラス若シ公訴狀申立ノ犯罪ヲ證明シ得サルモ証明シタル所ヲ以テセハ是ヨリ輕キ罪ノ證明トスルニ足ルコトアリテ爲メニ其罪ノ公訴成立スルコトナキニアラス例ヘハ謀殺罪ノ公訴狀中其罪ノ要素ナル「*malice aforethought*」ノ惡意ヲ證明シ得サル時ハ故殺罪トシテ其罪ヲ論シ得ルコトモアルヘシ犯罪ノ日時并ニ場所ニシテ其要素タルヘキ

モノハ公訴狀ニ掲ケサルヘカラサルコトハ既ニ講了シタル通りナルカ其必用ノ車輛タル總テ相當ノ證據ヲ舉ケ一々之ヲ證明セサルヘカラス如何ナル場合ニ於テモ其公訴狀ノ罪タル裁判所ノ管轄内ニ於テ犯シタルモノナルコトハ必ス證明セサルヘカラス若シ公訴狀ノ事實ト證明シタル事實ト相齟齬スルコトアルトキハ更ニ其公訴狀ヲ正誤スルニアラスンハ其公訴ハ成立セサルモノト知ルヘシ次ニ如何ナルコトハ證據トシテ提出シ得ヘカラサルカ之ヲ研究スルコト必要ナリトス之ヲ決スルニハ其論點ヲ證明シ又論點ヲ反證スル爲メニ直接ノ關係ヲ有スルモノナルヤ否ニヨルヘキ者トス夫ノ被告人ノ犯罪以前又ハ犯罪以後ノ惡キ行狀ノ如キハ其行狀ヲ善ナリトスルヲ反證スルカ爲ニスルニアラスンハ以テ證據ト爲ヌヲ得ス他ノ罪ニ關シ被告人ニ對シ告訴スヘキモノト定リタル場合ニ於テモ其事柄タル現ニ公判ヲ開キシ罪ニ關シ判事又ハ「レヂューリー」カ之ヲ參考スルヲ得ストスルハ法理ナリ又被告人ハ今公訴セラレ居ル種類ノ罪ヲ犯ス傾向ノ行狀アルモノナリトノ事モ證明シ得サルナリ又公訴ノ罪ト關係ナキ他ノ罪ヲ犯シタリトノ證明ヲ爲シ以テ其罪ノ證據ト爲スコトヲ得ス然レトモ此二罪互ニ關係

アリテ歸スル所一罪トナルヘキモノナルトキハ其所爲ノ性質ヲ示ス爲メニ公訴以外ノ罪ヲ證明スルモ可ナリ要スルニ其直接ノ關係アリテ裁許スヘキモノナルトキハ爲メニ他ノ罪ヲ發キ出スコトアルモノモ爲メニ之ヲ斥ルコトヲ得サルナリ但左ノ場合ハ例外ナリトス

第一、國事犯暴徒一揆或ハ讒謗罪ノ如キ前后ノ情況ニヨリ證明セサルヲ得サルモノハ此規則ヲ嚴格ニ適用スルヲ得サルナリ

第二、被告人ハ公訴セラレシ事柄ノ惡シキコトヲ知リ居ルトスルノ證明ヲ必用トセハ以前ニ同一ノ犯罪アリシトノ證據ヲ舉ルモ可ナリ縱令ハ銀行手形ヲ偽造スルカ又ハ偽造ノ紙幣ヲ行使セシトキハ被告ハ嘗テ是等ノ偽造品ヲ行使シ或ハ之ヲ所持セシトノ證明ヲ爲スモ可ナリ又被告カ用キタル口實ハ詐僞ノ具トスルニ足ルヲ知リ居リシトノ證明ヲ爲サンニハ詐僞ヲ以テ物品ヲ得タルコトアリシ或ハ得ントシテ得サリシコトアリシ等ノ證據ヲ舉ケ以テ證明ヲナスモ可ナリ又贓物ヲ受取ルカ或ハ之ヲ所持シタル人ニ對シテハ其被告人タル該公訴ヨリ十二ヶ月以前内ニ他ノ贓物ヲ有シ居リシトノ證明ヲ爲スモ可ナリ又

同一ノ場合ニ於テハ其公訴ヨリ五年以前内ニ詐偽又ハ不正ノ原素ヲ供ヘシ罪ニ處セラレシコトアリシトノ證明ヲ爲スモ可ナリ

第三、被告人ハ犯罪ノ意アリシヲ證明スルニハ他ノ罪ノ舉證ヲ爲スモ可ナルコトアリ例ヘハ謀殺罪ニ對シ嘗テ謀殺セント欲シテ遂ケサリシカ或ハ謀殺セントシテ恐嚇セシトノコトヲ證明スルモ可ナリ

第四被告人ノ行狀正シキコトヲ證スル爲メ證人ヲ提出シ得ヘキモ論點ニ直接ノ關係アルコトニ非レハ特別ナル一場ノ行爲ヲ舉ケテ以テ其正シキコトノ證トスルヲ得ス而テ其證明ハ證人一己ノ說ヲ以テ足レリトセス必ス現ニ一般ノ評判ニ關スル者ナラサルヘカラス例ヘハ何年許リ被告ト知己ナキリシヤ又其間確實勤廉正直ナリシヤトノ如キ問ニヨリ答ヘシメタル者ナラサルヘカラス既ニ被告人ハ正シキ行狀ノモノトノ一般ノ證據立テハ之ニ對シ其惡カリシト云フノ證據ヲ舉クルモ妨ケナキモ是亦特別ナル場合ニ限ラス一般ノ行狀ニ干シタル證據ナラサルヘカラス但被告ハ曾テ處分セラレシコトアリトノコトヲ證明スルモ可ナリ元來右ノ證據タルヤ既ニ罪狀ノ確證アリタル上ニテ其行狀

善ナレハ刑ヲ輕クシ不善ナレハ之ヲ重クスルノ結果ニ止マルモ證據充分ナラス疑フヘキノ廉アル場合ニハ其孰レニ之ヲ左右スルモ一ニ之ニ依ル譯ナレハ實ニ大切ナルモノト云フヘシ

次ニ考フヘキハ第一ノ良證ヲ舉ケサルヘカラス即チ若シ得ラルレハ蒐集シ得ラル、タケノ良證據ヲ舉クヘシ若シ之ヲ得ルコト難ケレハ之ニ次クヘキ證力アル證據ヲ舉クルモ可ナリト云フニアレハ第二等ノ證ヲ舉ル前ニハ必ス先ツ第一等ノ證據ヲ舉クルコト能ハストノ證明ヲ爲サ、ルヘカラス凡ソ證據ナル者ハ其本源ヨリ携ヘ來ラサルヘカラス本則トスルヲ以テ必ス其源ヨリ舉クヘキハ勿論ナレトモ源證已ニ盡クレハ一段劣ル所ノ證ニ依ルモ可ナリトハ之ニ次ク所ノ規則ナリ其意ハ證據効力ノ輕重ニアラス其出所ハ果シテ源ナルヤ將テ得ヘキ丈源ニ近キ所ヨリ提出シ來リタル者ナルヤ否ニアリ一ノ事ヲ證スルニ書面ヲ以テスルモ之ヲ見タリト云フ人ノ言ヲ以テスルモ一モ相異ナル處アルナシ皆第一等ノ源ニ就テ得タルモノトス此規則ヲ行フニ最モ普通ナルハ書面ヲ以テスルノ場合ナリ今書面ヲ以テ證據トナサント欲セハ本書ヲ以テスヘク寫又ハ口頭ノ證言ヲ

以テ之ヲ證明スルノ前ニ其證據ハ遺失セリ或ハ破損セリ或ハ反對者ノ手中ニア
 リ或ハ之ヲ差出スヘキ人ニ於テ相當ノ通知ヲ受ケナカラ之ヲ出サ、リシトノコ
 トヲ證明スルニアラスノハ寫書又ハ口頭ノ證言ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得ス
 然レトモ一タヒ第二等ノ證據ヲ出スコトアラハ如何ナル二等證ヲ出スモ可ナリ
 既ニ本書ノ提出シ難キヲ證明シタル場合ナレハ第二等トスヘキ證據中如何ナル
 證據ヲ以テ證明スルモ可ナリ然レトモ實際特ニ出所ヲ證明スルヲ必要トセサル
 場合ニハ便宜上寫ヲ以テ證明スルコト常ナリトス
 次ニ傳聞ノ證言ハ證據ト爲スヲ得ストノ規則アリ是レ蓋シ證人法廷ニ出テ居ラ
 サル者ヨリ傳聞シ來リシモノナレハ適法ノ誓式ヲ用ヒテ證言セシメタルモノニ
 アラス復問スルノ機會アラサリシモノナレハ價直乏シキノミナラス之ヲ許容ス
 ルハ爲メニ手續ヲ繁ニスルノミニシテ利益無ク只公判ヲ延滞ナラシムルノ憂ア
 リト云フノ意ニ出ツルナリ但シ其例外アレトモ茲ニ掲ケス
 次ニ自白ハ證據トシテ許容セサルノ場合アリ是レ自白者ノ或ハ狂氣ナルコトア
 ルカ或ハ其他ノ理由ノ爲メニ誤リアルカ或ハ明カニ傳ハラサリシ恐アリトスル

ニヨル而テ之ヲ許スハ其自白タル本人ノ檢束セラル、コトナク任意ニ述ヘタル
 モノナラサルヘカラサルヲ通則トス
 次ニ證據ノ直ニ以テ其事柄ヲ證明スルニ足ルモノト間接ニ他ノ事柄ヲ證トシ依
 テ以テ證明セントスル事柄ノ存セシコトヲ推知スルノ證具トスルモノトノ別ア
 リ例ヘハ證人ハ被告人ノ人ヲ刺スカ人ノ懷中ニ手ヲ入レタルカ又ハ其巾着ヲ切
 取リシコトヲ見タリトセンカ是レ直接ノ證據ナリ然レトモ證人ニ於テ被告人ハ
 其罪ヲ犯セシ時ニ其頃恰カモ被害者ノ家ニ行クヲ見タリ又該時被告人ヨリ外ニ
 ハ被害者ノ家ニ人ナカリシ又被告人ハ箆笥ノ内ニ血マブレノ刀ヲ入レ置キシコ
 トヲ知レルモノアリトノ事實アリトセンカ是レ間接ニ殺人ノ證據トナルニ過キ
 サル證言ナリトス
 元來右二者ノ區別タル其間毫末ヲ容レ得可ラサルコトアリ甲ハ乙ニ三ヶ所負傷
 セシメ死ニ致セシモ何レノ傷カ死ヲ致セシカハ知レサルコト、センカ而シテ丙
 ハ甲カ乙ヲ打チ第一ノ傷ヲ負ハセシヲ見タリト云フノ證言ハ直接ノ證據ト言フ
 ヘキカ否ヤ其區別ニ苦ムコトアル可シ要スルニ右ノ區別ハ各條件ノ場合ヨリ効

力ヲ定ムルヨリ他ニ途アラサルヘシ間接ノ證據ヲ分ツテ争フ可カラサル確定ノモノト唯推測ニ止マリテ覆サル、モ計リ難キモノトセリ東京ニ犯罪アリタリトスル時被告人ハ横濱ニアリタリトノ證據ハ斯ク動カスヲ得サルモノトス其他證據アル所ニヨリ區別シタル名アレトモ之ヲ詳説セス法律上定メタル推測ト反證アルマテハ動カサ、ルノ推測トノ二者ハ其區別ノ名ナリトス

- 第一 布告ノ如キ公然ノ書類ニシテ人ノ皆ナ知レリトスヘキモノハ證明ヲ要セス又之ヲ存スルコト一般ノ利益ニシテ人ノ之ヲ偽造變造スルカ如キ恐レナキ官府ノ書類ハ其正寫ヲ以テ證明スルヲ得ルモノトス被告人ノ既決罪ヲ證明スルカ如キハ言渡正本ノ拔萃ヲ以テ足レリトス其證印ヲ證明スルニ及ハス
- 第二 諸裁判所ノ公判録亦其正寫ナリトスル書面ニヨリ證明スルコトヲ得將ニ死セントスル人ノ證言ハ公布手續ヲ履ミ之ヲ調書ニ製シ置キ公判廷ニ於テ朗讀スルコトヲ許スノ制アリ
- 第三 私書ハ其本書ヲ提出スヘキモノトス但已ニ引例シタル場合ハ此限ニアラ

ス其正寫ハ書面ノ要部ニ付一々證明アルヘキ筈故ニ其書面ニ證人ノ調製ヲ證明スルコトヲ必要トスル場合ニハ證人ノ印鑑ヲモ證明セサルヘカラス

第四 人ノ手跡ハ其筆者ノ現ニ書クヲ見タルノ人或ハ之ト交通往復シテ手跡ヲ熟知スルノ人或ハ證明ヲ要スル書面ノ筆者ノ手蹟ナリトスル他ノ疑ナキ書面ト比照鑑定スルノ一二途アリテ孰レニ依ルモ可ナリ

次ニ必要ナリトスル場合ニハ犯罪ノ場所ヲ實地臨檢スルコトアリ但公判開廷後ニテモ可ナレトモ「ヒョーリー」ノ猥リニ他人ト言語ヲ交ヘ相通スルカ如キコトナキ様注意スヘシ

右ノ諸項ハ證據及證明ノ概略ナルカ代言人ハ其詳略共ニ我方寸ノ中ニ記臆シ置キ公判前證明ノ準備ヲナスニ當リ又開廷ノ上訊問シ故障スルニ當リ瞬時モ其念慮ヲ離レシムヘカラサルモノトス辯護ノ巧拙一ニ此如何ニ關スト云フテ可ナリ凡ソ證人ノ姓名ハ公訴狀又ハ答辯書ニ附記シ置クモノトス告訴代言人ハ先ツ證明セント欲スル告訴事實ヲ擧ケ一々公訴狀ニ附記シタル證人ノ名ヲ呼ビ辯護人ヲシテ之ヲ復問スルノ便ヲ得セシム復問ニ對シ再問スルハ固ヨリ告訴代言人ノ

自由ナリ又判事ハ何時ニテモ其問ハント欲スル所ヲ問フノ自由ヲ有スルハ勿論ナリトス

若シ證人間ニ相謀ル所アリテ不正ノ證言ヲ吐クカ又ハ他ノ證言ニ影響セラル、カ如キ憂アレハ證人ヲ公廷外ニ退カシムルコトヲ得レトモ訊問濟ノモノハ必ス滯延セサルヘカラス之ハ判事ノ見込又ハ原被告雙方ノ請求ニヨリ處分スルモノトス證人若シ其命ヲ奉セサルトキハ不敬罪トセラレ公判手續ヲ經スシテ即決セラル而テ此ノ如ク證人カ其命ヲ奉セサルコトアルハ其證言ニ多少影響ヲ來スコトアレトモ之ヲ以テ證人ヲ斥クルヲ得ス又證人トシテ出廷スルモノハ公判中往復途中用濟前後ハ捕縛セラル、コトナキノ特權ヲ有スルモノトス

此段落ニ於テ訊問規則ノ大畧ヲ説明スルコトヲ必要ナリトス代理人ハ非常ノ尋問自由ヲ許サレ居レトモ之ヲ制限スルノ規則ナキニアラス之ヲ遵奉スルハ固ヨリ其所ナリトス代理人ノ位置其各盡スヘキノ職掌其心得トスヘキ所ハ原被告代人ニヨリ同シカラス原告代人ハ必ス罪ニ陷ラシムルヲ目的トスヘキニ非ス唯被告ニ反スルノ點ヲ擧ケテ細大漏サス之ヲ陳述證明スルニアリテ事實證據ノ強

弱兩テ之ヲ羅列シテ論證セサルヘカラス事ノ真否ヲ探ルニアラス被告人ニ不利益ナルノ點ヲ掩ハス飾ラス之ヲ提出スルニ在リトス被告代人ハ被告ノ代言辯護ヲ爲スモノナレハ決シテ判事ノ心得ヲ以テセス其身自ラ被告人タルノ心得ニテ辨スヘキモノナレハ被告ニシテ爲サスシテ可ナルコトハ代人モ亦之ヲ爲スニ及ハス被告ノ不利益トナルノ點ハ之ヲ知ルモ敢テ口外スルニ及ハサルモノトス

第五回

凡ソ原被告何レノ召喚シタル證人ニテモ「*examine in chief*」ト「*cross examination*」トノ訊問方相異ルコトナシ各其爲メニ有益ノ證言ヲナシ他方ニ反對スルモノト假定シテ可ナリ若シ否ラストスルノ事情アリトセンカ他方ノ證人ヲ訊問スルト等シク「*cross examination*」ト「*examine in chief*」トノ規則ニヨリ訊問セハ可ナルモノトス

第一「*examine in chief*」ニハ論點ニ緊要ナル事柄ニノミ干シ訊問セサルヘカラス而シテ代人ノ豫期シタル答ヲ得ルコトアラハ利益トナルコト

勿論ナレトモ若シ又間接ナル種々ノ證據ヲ集メテ以テ證據ノ効力ヲ定メントスルニアルトキハ其間ハ皆各獨立シテ直接ノ關係アルモノタルコトヲ示スコトヲ得サルヤモ知ルヘカラス數個ノモノ集テ初テ證據トナルモノナレハ多少此規則ヲ寬用スルノ自由アルモノトス

第二「ゑきざみねーしよん、いん、ちーふ」ニハ答ヲ導クノ問ヲ設クヘカラス英語此問ヲ名ケテ「りーぢんぐ、くゑつしよん」(Leading Question)ト云ヒ問フ者自ラ欲スル所ノ答ヲ證人ニ指示スルノ傾向アル問ノ謂ナリ例ヘハ被告人ハ白帽ヲ冠リシカト云フカ如キ是ナリ然レトモ被告ハ如何ナル帽ヲ冠リ居リシカト問ハ、高低黑白何レナルカヲ指示スルモノニアラスシテ證人ハ實事ノアル所ニ原ツキ答ヘ得ルモノナレハ此規則ヲ犯スコトナキモノトス勿論被告人ハ帽子ヲ冠リ居リシヤ否ノ問ヲ必要ナリトスル場合ニハ此限ニアラス廣ク云フトキハ然リ若クハ否ナト云ヘル語ヲ以テ答ヘ得ル問ナレハ「りーぢんぐ、くゑつしよん」ナリト云ヒ得ルカ如クナレトモ必スシモ之ヲ以テ之ヲ試定スルノ標準トナスヲ得ス然否ノ答ヲナシ得ルノ問ハ皆必スシモ「りーぢんぐ、くゑつしよん」ニアルトアラサルトハ常ニ定ラサ

五四

五五

レハナリ例令ハ被告人ハ其話ヲ聞クコトヲ得シヤ否ヤトノ問ハ聞クコトヲ得サリシハ何ニ由ルカ何ヲ以テ聞カサリシトノ再問ヲ要スルコトアルヘケレハ其性質ヲ分示スルコト難シ然レトモ其財布ハ如何ニセシヤトノ問ナレハ證人ハ其財布ヲ斯々セシニ相違ナシト定メタルコトニナレハ「りーぢんぐ、くゑつしよん」ナリト云フヘシ實地上之ヲ判別スルハ實ニ瞬間ヲ以テセサルヲ得サルモノナレハ實地熟練ノ上自然ニ其別ヲ悟ルノ外他ニ途ナキモノトス「ゑきざみねーしよん、いん、ちーふ」ノ際ニ「りーぢんぐ、くゑつしよん」ヲ許ス例外ノ場合アリ

- 第一、已ニ問題トナリタル事柄ハ果シテ其通りナルヤ否其異同ヲ定ムル爲メニハ證人ノ注意ヲ惹起スカ爲メニスルトキ
- 第二、某ノ證言ヲ反證セントスル時ハ前ニ述ヘタル證言ハ果シテ眞ナルヤ否ノ「りーぢんぐ、くゑつしよん」ヲ發スルトキ
- 第三、判事カ證人ハ其召喚ノ相手ニ敵對スルモノト見込ムトキ
- 第四、證人記憶力ニ乏シク時ニ依リ又ハ事件ノ非常ニ混雜シタルカ爲メ漠然ナ

ル問ニ答フル能ハサルトキ

第五、時間ヲ節減スルカ爲メニ「汝ノ名ハ何」ト云ハスシテ「汝ハ誰某カ」ト問フカ如キトキ

第六、既ニ証人ノ述ヘタルコトニシテ之ニ對シ「くろす、ゑきざみねーしよん」アラサリシ場合ニハ其事タル既ニ定マリタルモノトシテ問フコトヲ得ルトキ
次ニ証人ニ問フニ其証人ナシテ答ヘシムルハ直接ニ証人自ラ知り自ラ覺ヘ居ル事ノミニ限ルモノトス但學問技術或ル國ノ風俗習慣ニ關係スルコトナレハ既ニ證明アリタルコトニ付説ヲ付ケシムル爲メノ訊問ナナスヲ得例ヘハ謀殺セラレシ傷ハ如何ト云フニ當リ外科醫者ニ此傷ハ果シテ死ヲ來ス者ナルヤ否ヤト問フノ如キ是ナリ之ヲ探ルト否ハ「じゆうりー」ノ見ル所ニ任スルモノトス右ノ規則ニ基キ証人ハ其証言ヲ朗讀スルヲ得ス獨リ記憶ヲ助クル爲メ其事ニ關スル書付ヲ參考スルヲ得ルニ止ルモノトス

「くろす、ゑきざみねーしよん」ニ「ゑきざみねーしよん、ちーふ」トハ全ク其目的ヲ異ニス之ヲナスノ代理人ハ訊問セントスル証人ト反對ノ位地ニ立ツ故自由ニ設

問スルノ自由ヲ存シ居ルモノナリ所謂「りーぢんぐ、くえすしよん」ヲ問フモ可ナレトモ爲メニ對手ノ利益ナル事項ヲ喚起スルノコトナキニアラス而シテ其「りぢんぐ、くえすしよん」ニ對スル答ハ誘導シテ得タルモノナルヲ以テ其價値自ラ僅少ナルモノトス代理人ハ此ノ如ク自由アリトハ云フモノ、証人ノ答フヘキコトヲ云ヒ其口ニ含ミ入レ再ヒ之ヲ吐キ出サシムルト同様ナル問ヲ爲スヲ許サス「くろす、ゑきざみねーしよん」ヲナスノ目的ニ二アリ第一「ゑきざみねーしよん、ちーふ」ニ証言アリタルコトヲ打消ス爲メ第二証人ノ信用ヲ減セン爲メナリ

代理人ノ注意スヘキハ其答ニシテ不利益ナルモノナレハ益々不利益ヲ重テ又証人ノ答眞ナレハ眞ナル程其事ヲ確メルノ二事ナリ而テ第二點ハ假令多少不要ノ點ニ付齟齬スル所アルモ之ヲ害セサルコト、知ルヘシ

「れゑきざみねーしよん」ノ目的ハ「くろす、ゑきざみねーしよん」ニヨリ發見アリタル事項ニ付重テ之ヲ詮テ且之ヲ説明スルニアレハ右以外ノ事柄ニ係ルモノニシテ「ゑきざみねーしよん、ちーふ」ニ於テ當然問フヘキノコトヲ今更テ問フヲ得サルモノトス既ニ右三種ノ訊問ヲ終リタル後ヲ問ハントスル事項アラハ代理人

ハ判事ヲ經テ問フヘキモノトス^レ「ビヨ」^リノ問ニ付テモ亦同シ
 若シ不要ナルモノナルカ又ハ^レ「リ」^リぢんぐくゑすしよん^ルニ對シテハ直チニ之
 ニ故障シ證人ノ答ヘサル前ニ之ヲ差止メサルヘカラス書面ノ提出アルヘキニ證
 言ヲ以テ證明セントスルモノアルカ如キ亦同シ但^レ「リ」^リぢんぐくゑすしよん^ルハ其
 發問アリタルヤ否其害既ニ生シ證人ノ答ヲ指示セラレタルニ等シキコト往々ナ
 レハ故障スルモ時既ニ晚キコト屢ナリトス
 右ノ諸則ヲ腦裏ニ記シ右ノ順序ヲ追ヒ既ニ示シタル公判手續ヲ履ミ告訴人ノ證
 人ヨリ被告人ノ證人エト訊問復問再問ヲ終リタル上ハ告訴人ハ其舉證シタ
 ル證據ノ効力關係ヲ辯論スルノ權アレトモ證據ノ申立タル所ト大要ニ於テ相違
 スルコトアルニアラスンハ之ヲ實行スルコト稀レナリ
 若シ被告人其證人ヲ提出スルトキハ告訴人ノ證人訊問ニ次キ辯護ノ事實ヲ申立
 テ之ヲ支フル爲メ其證人ヲ訊問スル其手續再ヒ前文ノ如クシテ終リタルノ後辯護
 人ハ其舉證シタル證據ノ効力及關係ヲ辯論スルノ權ヲ行フモノトス而テ告訴代
 言人ハ之ヲ辯駁スルコトアリ若シ共犯被告ノ一人ノミ證人ヲ提出シ其兩人ニ關

係スル者ナルトキハ辯護人ハ一体ニ辯論スルノ權アルモノトス辯護人ナキトキハ
 被告自ラ訊問辯論ノ手續ヲ盡スコト固ヨリ其權内ナリトス數人ノ中一人ノ辯護
 人ヲ出サ、ルモノアルトキ亦同シ各被告人辯護人ヲ異ニスルトキハ年長ノ辯護
 人各其ノ手續ヲ盡スモノトス又辯護人ヲシテ法律ノ點ニ付辯論セシメ訊問及^レ
 「ビヨ」^リニ對スルノ陳述ハ被告人之ヲ自ラナスヲ得レトモ辯護人ヲシテ訊問セ
 シメ自ラ^レ「ビヨ」^リニ對シ陳述スルノコトノミヲ行フヲ許サ、ルモノトス
 次ニ判事ハ提出アリタル證據ノ効力關係及該當ノ法律ヲ^レ「ド」^リニ説明ス而
 テ之ヲナスニハ第一ニ告訴事件ノ大要第二必要ナルトキハ該當ノ法律第三提出
 アリタル證據ノ筆記ヲ讀ミ舉ケ必要ノ批評ヲナス第四辯護ノ大要及其證據ノ効
 力等ヲ示ス之ヲ了テ後若シ疑フヘキハ罪スヘカラス證據ノ全体ヲ熟考シテ之ヲ
 決スヘシト云ヒ其説明ヲ結フヲ常トス
 此段落ニ於テ附說スヘキハ公判ノ一日ニシテ終ラサルカ必要ナル證據提出ノ爲
 メ若クハ證人ノ來着ヲ待ツ爲メ猶豫ヲ與フルカ被告人ノ卒爾ニ病ヲ發スルカ如
 キアラハ追日毎トニ又ハ日ヲ定メテ延期スルノコトアリ但被告人病氣ノ場合ニ

ハ「じゆーりー」ヲ解キ後日他ノ「じゆーりー」ヲ用ヒテ開廷ス
 次ハ「じゆーりー」ノ報告復命ノ手續ナリ
 凡ソ「じゆーりー」ハ其職ヲ盡ス爲メニハ如何ナル事柄ニテモ疑シキコトハ判事ニ
 問ヒ其差圖ヲ請フテ可ナリ判事ノ筆記讀ミ聞カセテ請フモ可ナリ又問ヲ發セシ
 ト欲セハ證人ニ對シ裁判所ノ原被ニ問フタルコトノ外尙ホ問ヲ發スルヲ得ヘシ
 若シ相當ノ猶豫ヲ得テ考案ヲ練リ到底同意一致セサルトキハ更ニ他ノ「じゆーりー」
 「」ヲ以テ公判ヲ開ク爲メ之ヲ解任スルモノトス凡ソ一致ノ復命ハ少シモ其事柄
 ニ就テ疑ヲ容ルヘキナク全ク其事ニ一定シタルモノナラサルヘカラス是レ固ヨ
 リ或ハ他ノ途ヲ以テ説明シ得ルト云フノ有無ニハアラス唯證據ノ出テタル所ヨ
 リ考フレハ疑フヘキナシト云フニ同意ヲ表シタルモノナラサルヘカラスト云フ
 ノ謂ナリトス
 此復命ハ有罪無罪ノ一言ニ止ルモノアリ罪狀數項ノ中幾分カチ有罪トシ他ヲ無
 罪トスルモノアリ又事實ノ歸スル所ノミヲ復命シ法律上ノ効力ハ裁判所ノ判定
 ニ委スル爲メ之ヲ定メサルモノアリ

六〇

五五

凡ソ一ノ公訴狀ニシテ數人ニ對スルモノナルトキハ「じゆーりー」ハ其幾人ヲ無罪ト
 シ其幾人カチ有罪トスルヲ得又或ル罪ヲ構造スルニ必要ナル被告人ノ定數アリ
 テ有罪トスル人數之ヨリ少キトキハ皆ヲ無罪トスヘキモノトス又公訴セラレタ
 ル罪ノ未遂ニ止ルモノナリトスル判定ナルトキハ初メヨリ未遂ヲ以テ取扱ハレ
 タルカ如ク未遂罪トシテ報告ス
 凡ソ輕罪ノ告訴ニ於テ其實證據重罪ト決シタルトキ其被告人ハ裁判所ノ見込
 ニテ先ツ之ヲ放免シ更ラニ重罪ノ告訴ヲ起スヘキモノトスル場合ノ外ハ爲メニ
 必スシモ放免セラル、コトナシ強盜罪ノ場合ニ於テハ強盜ヲ爲スノ目的ヲ以テ
 脅迫セシトノ罪ニ判定セハ之ニ處セラル、コトアリ又通常竊盜又ハ詐欺取財ノ
 公訴ヲ受ケシ被告人ナレハ依託物費消又ハ主人ノ財物ヲ盜ミシモノト有罪視ス
 ルモ可ナリ要スルニ一ノ公訴セラレシ罪ニ就テ其中同一ノ種類ニモ輕重アレハ
 重キモノニ就テ充分ノ證據アラサルモ輕キ罪ニ充分ノ證據アレハ輕キ罪ヲ科ス
 ルモノナリ
 若シ判事ニ於テ「じゆーりー」ノ復命ニ満足セサルトキハ再ヒ其取調ヲ命シ後ノ報

告ヲ以テ眞正ナル「不るぢくど」トスルコトアリ然レトモ「トゆるり」カ強テ其第一ニ申立タル方案ヲ以テ記録ニ記入センコトヲ主張スルトキハ之ヲ記入セサルヘカラス然レトモ若シ其有罪ナルモノニシテ現在スル證據ト反對シタルモノナルトキハ其記入ヲ取消シ更ニ再審ノ訴ヲ開クヘシ「トゆるり」カ無罪ノ報告ヲ爲セハ被告人ハ其罪ニ就テ全ク免カル、者ナリ故ニ他ニ公訴セラレシ所ノモノニアルスハ直ニ放免セラルヘキ者トス然レトモ其放免セラル、ハ唯手續上ノ理由アルニ止ルモノナルトキハ引續キ拘留セラレナカラ更ニ適法ノ公判ヲ受クヘキモノトス若シ罪ヲ犯シタル時ニ被告人カ狂人ナリシトノ故ヲ以テ放免セラル、モノナルトキハ皇帝陛下ノ御意ヲ俟テ裁可中ハ之ヲ捕ヘ置クモノトス「トゆるり」カ有罪ノ復命ヲ爲セハ被告人ハ「こんびくしよん」(Conviction) 即チ有罪ノ判決ヲ受ケタル者ナリ而シテ「トゆるり」ハ屢特別ノ事情ヲ申立テ赦罪又ハ酌量ノ請求ヲ爲スコトアリ幾個ノ罪ノ中第一ニ就テ有罪トセラル、トキハ次ノ罪狀ニシテ同一ノ者ナレハ更ニ公判セサルカ若シハ告訴人ハ第二事件ノ大要ヲ陳述スルノ式ニ止ムルヲ常トス若シ同一ナラサレハ直ニ公判ヲ續クルモノトス然シ

五七

テ第一ノ放免セラレタル罪狀ニ對シ提出アリタル證據タル別ニ第二ノ罪狀ニ對シ亦効力ナキ者トセハ直ニ放免ス右ノ復命アリタル上判事ハ先ツ被告人ニ向ヒ裁判ノ言渡ヲ故障スルノ理由ヲ有スルヤ否ヲ問フヘキハ一般ノ法則ナレトモ實際此手續ヲ用フルコト稀ナリ此「こんびくしよん」下裁判言渡ノ問ニ「もーしよん、いん、あれすと、じつぢめんど」(Motion in arrest of Judgment)ヲ爲スコトアリ是裁判言渡ヲ差止ルカ爲メニシテ此請願ヲ爲スノ理由タル公判ノ始末書ニ現ハレ居ル裁判ヲ不法トスルニ足ルヘキ瑕瑾アルト云フコトニシテ手續上ニアラス其事件ノ本體ニ關セシモノナラサルヘカラス夫ノ事實ノ申立ニ付公訴狀ニ在ル所ノモノハ充分明確ナラストスル前以テ罪ヲ構造スル所ノモノヲ示スニ明カナル事實一モ存セスト云フカ如キコトナラサルヘカラス然レトモ若シ其「じやぢめんど」ノ公訴中ニ正誤セラルヘキモノナレハ既ニ「トゆるり」ノ「不るぢくど」アルニ至リテハ其爲メニ救正セラル、モノトス是「こんびくしよん」迄ノ段落ニ達シタル上ハ正誤スルノ機會經過シタルモノナレハ決シテ裁判ノ言渡ヲ差止ムルヲ得スト云フニアリ若シ判事ニ於テ被告人ハ所謂法律ノ罪ニ就テ罪ヲ犯セシモノアララスト認ムレ

ハ之ヲ差止ムルコトアルヘシ若シ裁判言渡ヲ差止ムルトキハ公判ノ手續ハ全ク無効トナリ被告人ハ免訴ノ言渡ヲ受ケテ放免セラルヘシ然レトモ此場合ハ他ノ無罪放免トハ異ナリ被告人ハ再ヒ同一ノ判事ノ見込ヲ以テ法律上大切ナル問題ニシテ更ニ評議ヲ經テ定ムヘキモノアリトスルトキハ更ニ同一ノ事件ニ付公訴セラル、コトアルヘシ凡ソ「ふゑろねー」ノ場合ニハ被告人必ス裁判言渡ノ時ニ出廷シ居ラサルヘカラス

裁判言渡ハ判事カ事件ニ相當トスル意見理由ヲ附言シテ言渡スヲ慣例トス是ヨリ公判ニ付種々ノ附屬事項ヲ述フヘシ
被告人カ英吉利法律ノ認ル丈貧困ナル證明アルトキ又ハ事件ノ困難ナル謀殺罪ノ如キモノナルトキハ相當ノ手續ヲ經又ハ判事ヨリ無入費辯護人ヲ附與ス又或ル場合ニ於テハ告訴人ノ貧困ナル爲メ入費ヲ要セスシテ告訴スルヲ許ス場合アリ其時ハ請願書并ニ其事實ヲ證明スルノ憑證ト何故ニ此ノ如キ例外ノコトヲ請求スルカト云フ特別ナル理由ナカルヘカラス
凡ソ贓物財産ハ各所有主又ハ其代理人へ還附ス可シ其他人ノ手ニ移リテ相當ノ

額ヲ與ヘ善意ヲ以テシ一モ情ヲ知リシモノト疑フヘキモノニアラサルトキハ原所有主之ヲ取戻スコトヲ得ス

善意ノ現有者ハ強テ之ヲ取戻ントスル原所有主ニ勝ツコトヲ得ス法律ハ法律ノ手續ヲ盡シ公益ヲ計リ公訴ノ手續ヲ計リシモノヲシテ其所ヲ得セシムルコソ本意ナルヲ以テ善意ノ現有者トテモ之ヲ告訴人ニ戻サ、ルヘカラス只必スシモ利益ヲ失フモノニアラス被告人ノ手ニ残り居ル金錢アレハ原所有主ニ還シタル財産ニ對シ現有者カ被告人ニ拂ヒシ所ノ金額丈ハ之ヲ拂ヒ戻スモノトス
又其贓物ヲ質入レアル場合ナレハ其事件ノ情況ニヨリ裁判所ノ見込ニヨリ其代價ヲ質取主ニ拂ヒ又ハ拂ハスシテ之ヲ取戻スコトヲ得
別ニ還附ノ言渡ナキモ贓物ヲ發見シ他人ノ未タ其所有權ヲ得サルモノナレハ私シニ穩便ノ道ヲ以テ之ヲ取戻シテ可ナリトス
前文裁判言渡差止ノ外取調ヲ再ヒスル上訴手續ノ場合アリ
告訴人ノ公判通知ヲナサ、ルカ「ぼるぢくど」ノ證據ニ反スルカ又ハ判事ノ差圖ニ背クコトアルカ證據ノ取捨法律ニ背クコトアルカ判事ノ差圖不法ナル所アリシ

カ「じゆり」ニ背法ノ行アリシカ其他裁判所ノ再審ヲ許スヲ相當トスル場合ニハ「にうどらひやる」(再審) (New Trial)ヲ開クモノトス其公判無効トナリタルカ如キ場合ハ固ヨリ公判無効トナリタルモノナレハ再審ヲ許スノ用アラサルモノトス再審ハ判事ノ扣筆記録ニヨリ又ハ宣誓申立書ニヨリ被告人ノ面前ニ於テ原被告代言人ノ論辯ヲ聞キ之ヲ許否スルト其入費辨償ノコトヲ裁判ス其許サレサルトキハ更テニ最初ヨリ公判ヲ開クモノトス

次ニ「りつど」を「るる」(Writ of Error)ト名クル手續アリ公訴狀ニ不法アルカ言渡不法ナルカ裁判所管轄ヲ有セサルカ事實理由具備セサルカノ場合ニ於テ下等裁判所ノ言渡ニ對シ高等裁判所ハ其一件書類ノ送達ヲ命シ書類ニ付之ヲ鑿査ス而シテ取調ノ結果ニヨリ高等裁判所ハ自ラ適法ノ裁判ヲ言渡スカ又ハ前裁判所ヲシテ再審セシム是レ我上告ノ手續ニ類シ更テニ公判開廷ヲ得ルノ手續ナリトス若シ直チニ裁判スルハ穩ナラス更テニ高等裁判所ノ評決ヲ經ヘキモノナリトスル場合ニハ判事ノ見込ヲ以テ其手續ヲ行ハシム而シテ高等裁判所ハ代言人ノ辯論ヲ聞クカ其出廷セサルトキハ記録ニ付テ審判シ無罪ヲ言渡スカ他ノ裁判所ヲ

シテ覆審セシムルカ相當ノ處分ヲ盡スモノトス是亦我上告手續ノ一部ニ類スルモノナリ

右ニテ「ふゑろぬー」ノ裁判手續中必要ノ事項ヲ終レリ其他刑ノ執行種類期限幼者及婦女子ノ處刑懲治檻謹慎誓約監視赦罪沒収奪權等ノ如キ必竟行政手續ニ屬シ行政吏ノ心得ヘキモノニ止リ治罪ノ如キ止ムヲ得サルニ出タル制定ニ基キ其止ムヲ得サルモノヲシテ執行公正ヲ得セシムルコトニ從事スル裁判官代言人ノ研究ヲ煩スヘキコトニアラサルモノハ我講義ニ之ヲ編入セス唯略式裁判ヲ許スノ場合及其手續ヲ畧叙シテ之ヲ終ルヘシ

畧式裁判手續「さひまれー、こんびくしよん」(Summary Conviction)

畧式裁判ノ正式手續ニ異ナルハ陪審官裁判ニ參列セス獨リ判事ノ判決ヲ以テ其有罪無罪ヲ決スルノ一事ニアリトス

元來警察官「ぢやすちす、どふ、びーす」ハ保安ヲ警メ罪人ヲ捕縛スルノ本職ナレトモ通常刑事裁判所ノ費用及延滞ニヨランヨリ警察官ヲシテ之ヲ審理セシムルモ不足ナキカ故近來特定ノ法律ニヨリ畧式裁判手續審理ノ件ヲ以テスルコト益多キヲ

加フルニ至レリ其管轄ハ罰金又ハ六ヶ月以内ノ禁錮再犯ニハ十二ヶ月以内ノ範圍内ニ於テ罰シ得ルモノニシテ之ヲ行フハ多クハ其所轄區内ニ止マルモノトス之ヲ委任シタル布告ノ定ムル所ニ依リ一人又ハ數人ノ「ぢやすちす」をふびすヲ以テ裁判權ヲ構成ス

其管轄スル主要ノ罪名左ノ如シ

毆打創傷罪 通常竊盜罪 財産毀傷罪 銃獵規則違犯罪 幼者犯罪

右通常竊盜罪中情輕クシテ竊盜ノ名稱ヲ以テ論シカタクキ者ハ無論本分零式裁判ノ管轄ナリ罪小ナルモ尙「ゐんだゐどめんど」ノ手續ニ依リ處分スヘキモノニ關シテハ其竊取金額極小ナルカ又ハ未遂罪ニ止マルモノナルトキ獨リ法律零式裁判ヲ委任ス若シ被告ノ此零式手續ヲ用フルコトヲ故障スルカ再犯ナルカ爲メ懲役ノ刑ヲ充ツヘキモノナルカ其他「ゐんだゐどめんど」ニ付スヘキモノト「ぢやすちす」をふびすノ思考スル場合ニハ略式審理セサルモノトス

被告ノ略式手續ヲ用ルコトヲ承諾スルヤ否ハ告訴方ノ證人ヲ訊問シ終リ被告ニ答辯ヲ命セサルノ前告訴事件ノ大要ヲ告ケ略式ノ審理ヲ故障スルヤ否ヲ尋テ

之ヲ定ムヘキモノトス若シ其罪重キモ證據充分ナルヲ以テ略式審理スヘキモノト考フルトキハ告訴ノ大要ヲ書面ニ認メ被告ニ讀聞カセ其之ヲ服スルヤ否ヲ問ヒ服セハ直ニ之ヲ罰シ服セサレハ公判ニ付スヘキモノトス併シ之ヲ尋ヌル前法律ニ從ヒ被告ハ強テ零式裁判官ノ審問ニ對シ答辯スルヲ要セサルコトヲ説明スヘキモノナルニ依リ其上答辯セサルトキハ是又公判ニ廻スヘキモノトス幼者ノ犯罪ヲ略式審理スルハ永ク未決檻ニ在テ公判ヲ待テ年長ノ罪人ト相接スルノ弊ヲ防カン爲メナルカ其罪公判ニ付スヘキモノト思考スルカ又ハ本人或ハ其父母ニ於テ零式裁判ヲ故障スルトキハ公判ニ廻スヘキモノトス之ヨリ略式裁判手續ヲ説明スヘシ或人罪ヲ犯シタルカ或ハ之ヲ嫌疑スヘキモノニシテ零式審理ノ罪ナリトシテ告訴ノ申立アルトキハ「ぢやすちす」をふびすハ其爲メ其告訴ノ事件ニ限リ管轄權ヲ得タルモノナリ而シテ申立ハ書面ヲ要セス告訴本人又ハ代人若クハ代言人ノ口述ニ依テ爲シ得ヘキモノナルトモ書面ヲ用ユルヲ常トス右ノ申立ニ付キ告訴事件ノ大要ヲ示シ法律ノ處分ヲ受クヘキ爲メ指定シタル日

時ニ出廷スヘキコトヲ命シタル召喚狀ヲ被告ニ宛テ發シ相當官吏ヲ以テ被告ヘ親シク又ハ其最終或ハ平常ノ住居ニ就キ之ヲ送達セシム之ヨリ相當ノ時限ヲ經テ被告出廷セサルニ至リ告訴人ノ宣誓ニ依ルニ告訴事件充分成立スヘキモノナリト見ルヘキ時ハ拘引狀ヲ發スルモノトス但宣誓證明アリテ直チニ手續ヲ盡スノ理由備ハルモノトスヘキトキハ召喚狀ヲ用ヒス第一着ニ拘引狀ヲ發スルコトヲ得

拘引狀ニハ告訴事件ノ大要ヲ示シ之ヲ發スルノ「ぢやすちす」記名調印シ之ヲ執行スヘキ巡查ニ宛タルモノナラサルヘカラス拘引狀ハ其執行アル迄ハ有効ナルモノニシテ管轄全區又ハ被告住居地ノ警察官ノ認印ヲ得タル上ハ其區内ニ於テ之ヲ執行スルヲ得ルモノトス

又召喚狀ニ應シ出廷ナキトキハ宣誓式ヲ履ミ訊問シタル上欠席裁判ヲナスコトヲ得但シ其事件ノ事實ハ誓證ノ道ニヨリ之ヲ取調フヘキモノトス兩造ノ證人ヲ召喚スルモ之ニ應セサルモノナルトキハ拘引狀ニ依リ之ヲ拘引スルヲ得

零式審問ノ法廷ハ公判廷ニ均シキモノニシテ被告ハ證人ヲ訊問シ充分答辯ヲ爲

スヲ得ルノ權利アルハ勿論ニシテ相方共代理人ヲ用ユルコトヲ得

被告欠席スルトキハ欠席審問スルカ又ハ日延スヘシ被告出廷スルモ告訴人出廷セサルトキハ告訴ヲ棄却スルカ日延スルカ被告ヲ拘留スルカ其誓約スルニ於テハ退廷セシムルカノ一ニヨリ所分スルモノトス其誓約ヲ果サス出廷ヲ怠ルモノハ通常ノ如ク之ヲ所分ス

兩造共ニ出廷スルトキハ告訴ノ大要ヲ被告ニ讀ミ聞カセ之ニ答辯スルノ道アルヤ否ヲ問ヒ其自認スルトキハ直チニ之ヲ裁判シ其答辯セントスル時ハ告訴ノ申立ヲ聞キ宣誓式ニ依リ證人ヲ訊問ス次ニ被告ノ申立ト證明ヲ調ヘ其上告訴人ノ證明セントスルコトアレハ之ヲ聞キテ裁判ス數人ノ裁判官アルトキハ多數ヲ以テ決ス若シ有罪ナルトキハ之ヲ記録ニ掲ケ無罪ナルトキハ無罪ノ證明書ヲ下附ス其證明書ハ再ヒ同事件ニ付告訴セラル、コトナキヲ證スルモノトス但兩造共相手ノ證據ニ對シ辨駁ヲ加フルコトヲ得サルモノトス

裁判ニハ其有罪ナルノ理由ト科シタル刑ヲ言渡スヘキモノナレトモ之ヲ罰スルヲ可トセサルカ又ハ餘リ罪輕キモノナルトキハ之ヲ罰セサルコトアリ又還付ス

へキ贖物ハ公判裁判ノ如ク之ヲ還付ス
 罰金ハ被告ノ動産ヲ賣却シテ徴収スへキモノナレトモ其所分タル到底被告ノ身
 代ヲ盡スニ至ラントスルモノナルカ又ハ無産ノ被告人ナルトキハ禁錮ヲ以テ之
 ニ代ユ
 訴訟入費ハ有罪ノ被告人之ヲ辨償シ無罪ナルトキハ無罪證明書ニ指定シタル入
 費ノ金額ヲ告訴人ヨリ徴収シ得ルモノトス
 右ノ畧式裁判言渡ニ對シ特定ノ法律ニ依リ「くさーどるせしよん」へ扣訴スルカ又ハ
 許可ヲ得テ高等裁判所ノ控訴ヲ受クルコトヲ得又法律ノ點ヲ誤リタルモノトシ
 テ高等裁判所ノ判決ヲ乞ハント欲スルモノハ「ぢやそちす」ニ於テ理由アリトセハ
 之ヲ許可スへシ但此請求ニ依リ扣訴ノ權利ハ消滅スルモノトス此請求ハ裁判言
 渡ヨリ三日内ニ申立テ而シテ其許可アリタルヨリ三日内ニ對手人へ通知シ原裁
 判取消ナキモ裁判ヲ受ケ入費ヲ拂ヒ遲滞ナク手續ヲ盡スへキコトノ誓約ヲ爲ス
 ナ必要トス
 或ル場合ニ於テハ「くいんすべんちでびまよん」へ之ヲ移シ公判手續ノ「りつど、をふ、
 五九

ゑろる」ト全一ノ再審ヲ受ルコトヲ得

手續不法ナルカ所分過刻ナルトキニハ法律ニ從ヒ民刑上ノ手續ニ依リ「ぢやすち
 す」ヲ訴ルコトヲ得若シ其故意ナルカ私怨ニ出タルカ其他不正ノ意思ヨリ出テ此
 裁判權ヲ濫用スルモノアルトキハ告訴シテ相當ノ罰ヲ受ケシムルコトヲ得

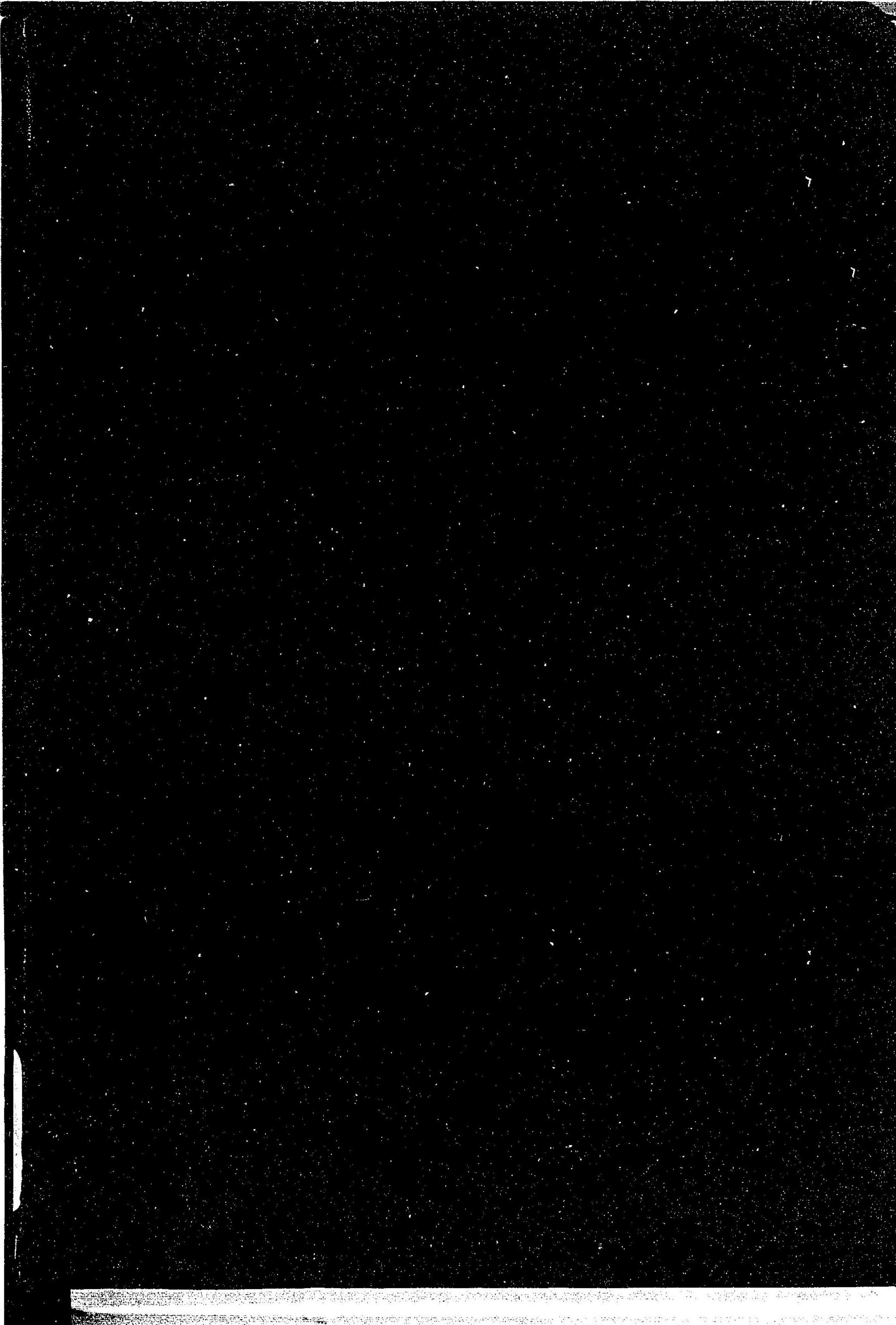
右ハ英吉利治罪法中吾參考トナルへキ部ヲ舉ケ治罪手續ノ大要ト其標準ト爲ル
 へキモノヲ講シタルナリ人若シ依テ以テ右英吉利治罪法ノ精神ヲ觀ルヲ得ハ講
 者ハ満足ニ任へス遠カラス吾治罪法ヲ講スルノ考アルニ依リ尙右ノ標準ト精神
 ナ取り考照スル所アラントス只法律實務繁忙ノ中此約ヲ履ムノ余暇ヲ得ンコトヲ
 祈ルノミ

英吉利治罪法結尾

明治三十五年十月十八日合本記入

14

332 ▢



14

332口

Ⓜ

036593-000-7

14-332口

英吉利治罪法

増島 六一郎 / 述

[M 2 1 ?]

BBS-0002



36.2.28

